

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

第37号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392-8548 諏訪市清水1-10-1 編集：会報部会 第78回生（昭和47年入学）

検証、諏訪力。

——歴史の転換期に、僕らの原点を再確認する。

東日本大震災は、列島に計り知れない衝撃を与えた。同窓生の中にも被災した方々がいらっしゃる。心からお見舞いを申し上げますとともに、僕ら自身、今後いったい何ができるのかを自問しないではいけない。20世紀型の近代社会の枠組みは、すべて相対化されてしまった。僕らは21世紀らしい生き方を、改めて原点から考え直さざるを得ない。原点とはすなわち、諏中・清陵、諏訪である。78回生会報部会は、さまざまな立場から諏訪を究める人々を同窓生中心に取材し、『諏訪力』の根源を探った。見えてきたのは、21世紀に向けた諏訪の極めて大きな可能性だった。

特集全9ページ

INTERVIEW 1 ● 縄文の力	P1
小林公明さん 67回生	
～縄文山岳民族三千年の聖地	
INTERVIEW 2 ● 諏訪信仰の力	P3
北村皆雄さん 映像民俗学	
～爆発力を内蔵した宗教都市	
INTERVIEW 3 ● ものづくりの力	P5
山崎俊一さん 80回生	
～雖千萬人吾往矣の精神	
INTERVIEW 4 ● 三澤教育の力	P7
石城正志さん 78回生	
～常に変化していく伝統	
まとめ ● 『諏訪力』の可能性	P9

INTERVIEW 1 ● 縄文の力

諏訪湖は、縄文山岳民族三千年の聖地だった

小林公明さん 67回生 井戸尻考古館前館長



井戸尻考古館の重文神像筒形土器の前で

井戸尻考古館は、尖石縄文考古館とならぶ日本の市町村立考古館のフロントランナーである。その特徴は、すばらしい土器・石器の数々と、何ととっても極めてユニークな研究実績だ。かつては異端とされていた藤森栄一先生（30回）の縄文農耕論を大成し、さらには今も異端と見なされている縄文図像学によって『縄文神話』の再現に取り組んでいる。

館の設立当初からずっと学芸活動に携

わってきた小林前館長は、八ヶ岳山麓の中期縄文土器の芸術性は、1万数千年の縄文時代を通じての最高峰であり、そこには世界の古代に共通する、月を中心とした太陰の世界観が表現されているという。それは、僕らが探ろうとする『諏訪力』とどうかかわっているのだろうか。まずは井戸尻周辺の発掘の歴史から伺った。

富士見の戦後考古学の黎明

「富士見町の考古学的発掘はね、最初に昭和28年の夏に高森地籍あらみちで新道遺跡が発見されて、諏訪考古学研究所の藤森栄一先生に連絡して、戸沢充則先生（51回・明治大学元学長：名誉教授）や松沢

定期総会・談論会に集おう！

平成23年度定期総会

日時 平成23年6月25日（土）午後1時30分より
場所 諏訪市湖岸通り「ホテル紅や」
議事 ①平成22年度会務・会計報告
②平成23年度事業計画・予算案審議
③その他

『大人の』談論会（午後3時より）

テーマ 『諏訪力』世界を変える僕らの原点
～縄文から清陵教育まで～

懇親会（午後5時より）

会費 5,000円（当日受付にて）

在校生
の参加も
大歓迎！

※前売チケット販売中！ 当番学年、同窓会事務局、各支部事務局、学年幹事にて取扱中。当日受付にても可。

当番学年（足立孝幸）：TEL 0266-72-2217 同窓会事務局：TEL 0266-58-0356（金・月出勤）

諏訪清陵高校同窓会会長・松下勲（当番幹事78回生、次年度当番幹事79回生、サブ幹事学年88回生・98回生）



昭和28年、藤内遺跡を発掘する地歴部の生徒たち。後ろに立つのは宮坂英弼先生。尖石縄文考古館提供

亜生さん(56回・元岩宿文化資料館館長)も来て発掘したんだよね。その年の秋には藤内遺跡(出土品は平成14年に重文一括指定)も出て、尖石の宮坂英弼先生(6回)が来て発掘してるんですよ。先生と一緒に、清陵の地歴部も来ている」(小林さん)

地歴部考古班とOBの皆さんが、富士見の地に集結したのだ。それも、以後の日本の考古学界を背負って立つ極めて豪華な顔ぶれで。

「それをきっかけに、地元で武藤雄六さん(井戸尻考古館元館長)も加わって歴史学会が発足して、昭和33年には井戸尻遺跡を発掘した。そうしたら、ちょうどいい住居址へ3軒当たって、中期の非常に豪華な土器がザクザク出てきた(笑)。当時そんなことは珍しくて、グラビア誌でも大きく紹介されたねえ」

富士見では空前の考古学ブームが巻き起こった。100人を超す会員を集めて井戸尻遺跡保存会が発足し、翌年以降の発掘には、松本深志、二葉、岡谷東、諏訪実の各校も参加したという。岡本太郎が愛し、10円ハガキのデザインにもなった水煙土器(県宝)も、この時期の発掘だ。「ところが、俺が地歴部の3年になろうとする昭和38年の春は、主だった遺跡を掘りつくして発掘の予定がねえっちゃうことになってさ、じゃあ清陵地歴部だけでやろうということになった」

地歴部考古班が発掘主体に

地歴部考古班では、藤森栄一先生に発掘担当者を依頼し、一年先輩の宮坂敏文

さん(66回・諏訪市副市長)が文化財保護委員会(現文化庁)への提出書類を作成し、学校長印をもらって県經由で国に上げ、許可を得るまでを成し遂げてしまった。今では大学のサークルでもできないことだろう。

「だけど、俺たちだけじゃトレンチ掘ってもなかなか住居址が見つからなくてさ、結局保存会の人に来てもらった。あの人らには動物的カンがあるから、ざっと見て『いや、この辺にありそうだ』って言うの、ちゃんと住居のど真ん中の炉の上を開けたっちゃうわけだ(笑)」

その年の晩秋、地元では報告書刊行の話が持ち上がり、富士見町制10周年事業として予算化され、翌々昭和40年7月には早くも『井戸尻』が上梓された。

「8年の間に、一気に呵成に発掘から出版までの大仕事をやったっちゃうわけさ。推進をした保存会もみんな素人で、考古学の専門知識を持った人は武藤雄六さんくらいしかいないわけで。今考えてみればよくあんなことをやったと思うね」

在野の精神と縄文農耕論

小林さんによると、そのようなエネルギーの背景には、戦後ようやく経済的にも安定を見た時期の、全国的な考古学熱があった。だがそれ以上に、宮坂英弼・藤森栄一を筆頭とした諏訪の伝統的気風の力が大きかったという。

「諏訪は気質として在野の精神が旺盛なところだからさあ、偉い大学教授が来たからってへいこらすっちゃう感じじゃさらさらねえから(笑)。事実かどうかは別として、建御名方の時代から、さらにそれ以前にさかのぼる石器時代から、やっぱりある種反中央の精神はあったんじゃない? (笑)」

その精神が、やがて井戸尻での縄文農耕説の大成にむすびついていく。

「藤森先生は農家の出身でないから、いわゆる縄文農耕論のネタを提供したのは武藤さんだね。石器の見方なんかも、武藤さんら保存会のメンバーは自分で百姓をやってるから、『これは草取り鎌にいい』とか『これは穂首を刈るのにいい』とか言い始めた。しかも大学の発掘作業を眺めてたわけじゃなくて、自分たちで掘ってるから、そこがやっぱり違うよね」

在野も在野、本当に土着の学問なのだ。

昭和49年、現在の井戸尻考古館が完成。藤森先生はその前年に惜しくも逝去

され、研究は武藤さんや小林さんらに本格的に受け継がれることになる。

縄文図像学による縄文神話の再現

武藤さんや小林さんを中心に井戸尻に集まった若手は、現在も続く研究誌『山麓考古』をガリ版刷りで創刊する。そこで武藤さんは、土器図像の解釈を始めた。「面白えなあ、きっと何か意味があるはずだ、と言ってやってたの。そうこうするうち、1970年代の終わり頃、当時考古・民族・人類学の季刊誌『どるめん』の編集長だった田中基さんが、ネリー・ナウマンというドイツの学者が書いたものを自分なりに焼きなおした考えを持ち込んできた。それを見ると、この辺で武藤さんや俺たちがやってたものとは方法論も違うし、桁外れなわけですよ。で、『これがいいな』ということになって、そっちに鞍替えしたっちゃうわけだ(笑)」

まさにこのとき、インタビュー中の事務室に田中基さんご本人がやってきた。満面の笑みで楽しそうに口をはさむ。

「俺が最初に東京から来た時、ちょうどここで土器文様について話し合ってたんだけど、本気でけんか腰でやっているんだよ。『いやあ諏訪の人は違うな、こういうふうにしてやらなきゃいかんのか』と思った(笑)。洗礼浴びたよ」(田中さん)

小林さんが笑ってつけ加える。

「あの頃は、早くから独自に縄文図像の解説をしていた武居幸重さん(57回)もちょくちょく来ていてさ、ここで武藤さんとやり合ってたんだよね。あのときは、片方は『この文様はロケットだ』っちゃうわけだ(笑)。もう片方は『大根



曾利遺跡出土・県宝水煙渦巻文深鉢。井戸尻考古館提供

だ』っちゅう(笑)。だいたい諏訪人は、議論となれば『絶対に俺が正しい』と思っ
てけんか腰だからさあ」(小林さん)

田中さんはそれ以後、最新の発掘成果をリアルタイムで見たさに、信濃境に引越してきてしまう。井戸尻の縄文図像学は大きく成長した。縄文中期の八ヶ岳山麓には、人類学的・神話論的に見て日本の記紀神話の主要部、少なくとも火の誕生神話があったことが提起され、各方面で大きな反響を呼んだ。その成果は、『富士見町史 上巻』新石器時代編(小林公明さん著)や、田中基さんの著書『縄文のメドゥーサ』にまとめられている。

「だけどほんと、山口出身の俺に言わせると、諏訪は外国だな。人も神様も、古代のまんまだ」と、田中さんが笑った。

縄文前期に山岳民族の聖地が確立

さて、『諏訪力』である。土器文様から見る『諏訪縄文人』の特質は？

「やっぱり、全国的に見ても特殊だよ。土器のパラエティも、石器の組み合わせを見ても、極めて多種多様で。だから、人間の精神に非常に起伏とメリハリがあったんだと思う。生活も精神も、のっぺらぼうじゃないんだ」(小林さん)

小林さんは、その背景としてまず諏訪エリアの地形を挙げる。交通機関の発達した現代では、『自分は山国に住んでいる』と思う諏訪人は少ないだろう。だが明治時代でも、当時の人類学者たちは諏訪のことを『山岳地帯』と記している。ましてや縄文期。まだ噴煙を上げていた富士山と、霧ヶ峰、西山の間に大きく広がる『大地の瞳』のような古諏訪湖。その両方が見渡せる八ヶ岳山麓に、山岳民族の精神文化の粋が結集されたイメージがあると小林さんは言う。

「実は2008年に、井戸尻発掘50周年ということで、茅野、原、富士見と北杜市と一緒に、初めて県境を越えた八ヶ岳南麓の遺跡マップを作ったんだよ。それを見ると、縄文中期から1千年をさかのぼる前期初頭に、ちょうど4市町村に1つずつ、主要な集落ができています。どうも、それが決定的だったと思うね」

当時、南九州で鬼界カルデラの大爆発が起きて早期の大集落が滅び、全国的には温暖化による縄文海進の時代だった。土器を見れば、東海系・南関東系・北関東系の文化が、天竜川や相模川、大門峠を通して信州に入り、諏訪湖を中心にそ

れら3系統の文化が融合し、中部高地独自の文化ができた時期だという。まだ富士山は現在のような山容になっていなかったから、諏訪湖が世界観的な宇宙の中心だったろう、というのが小林さんの考えだ。

「なんとも難しいけど、たぶん、ある有力な氏族集団があったと思うね。それを中心として、今で言うなら逸見衆、境方衆、原山衆、山浦衆というような地域社

会があったということだ。前期の初頭から後期の中頃まで3千年、短く見ても2千5百年は連綿として血筋がつながってたはずだから、その有史以前の歴史の厚みというのはでかいと思う。それが、皆さんの言う『諏訪力』のおおもとの栄養源になっているじゃないかねえ」

遠い目をした小林さんの視線の先、事務室の窓の外には、遺跡公園越しに富士と南アルプスの絶景が広がっていた。■

INTERVIEW 2 ● 諏訪信仰の力

諏訪は爆発力を内蔵した宗教都市だ

北村皆雄さん ヴィジュアルフォークロア代表(映像民俗学)



東京・新宿区のオフィスにて

北村皆雄さんは、日本の映像民俗学分野の第一人者。アジアや日本各地で、多くのドキュメンタリー映画やTV番組を撮り続けてきた。伊那市出身で、かつて「古部族研究会」同人として諏訪信仰をめぐる画期的な研究に取り組み、監督としてDVD/VHS作品「諏訪の御柱」(1992)を製作するなど、諏訪とは深い縁をお持ちだ。現在は映画監督として、伊那を舞台にした新作「ほかいびと——伊那の井月」の製作に取り組んでいる。そんな北村さんの目に、『諏訪力』はどのように映っているのだろうか。

諏訪信仰圏・伊那に生まれ育って

——北村さんは、どんなきっかけで諏訪信仰の研究に入られたのですか？

「伊那にいた頃は、自分の足元にある価値ってなかなかわからないもので、『諏訪の人と伊那の人は違う』という程度の感覚でした。ところが、僕の育った美簗青島って小さな村にも諏訪神社があって、北村家の家紋も諏訪神社の上社とまったく同じだったんです(笑)。諏訪神社を村に勧請したとき、つき従って来

たという伝承も残ってまして。中世の神事や御柱への奉仕記録を見ても、結局伊那って完全に諏訪文化圏なんですよ——それで諏訪に関心を持って、古部族研究会を始められたんですか？

「諏訪とのつながりを知らないが故にもっと知りたいというのが契機みたいなものでしたね。1974年、早稲田の1年上だった田中基さんと新宿の喫茶店でたまに会って、道祖神とか藤森栄一さんの『銅鐸』の話をしているうちに、『やっぱり諏訪をやろう』ということになって、当時横浜の寿町のドヤ街で相談員をしていた野本三吉さん(教育学者・沖縄大学学長)を誘って、3人で今井野菊さん(茅野市の郷土史家。全国1,500社以上のミシャグジの踏査研究を行う)を訪ねたのが始まりですね」

諏訪をめぐる冒険の始まり

北村さんたちは最初の諏訪訪問で、茅野の民宿に1週間も泊まり込んで、今井野菊さんの家へ通い詰めたという。

「諏訪の人たちには、何というか、脅されましたね(笑)。矢崎孟伯さん(34回・郷土史家)が野菊さんの家へ山のように本を持ってきて、『お前たちこれを読んだことがあるのか』と言われたり(笑)。藤森栄一さんは亡くなったばかりだったんで、家へご挨拶に伺ったら、お弟子さんたち、つまり新田次郎(31回)の『霧の子孫たち』に登場している皆さんが20人くらい詰めかけていて、『たまたま集まっていた』と言うんですけど、明らかに僕らを試している感じで(笑)」

しかし、諏訪の研究者たちは熱かった。

いったん気心が知れてしまうと、全力を挙げて協力してくれたという。

「資料にしても『それじゃ足りないだろう、あれもこれも持っていけ』みたいな感じで(笑)。本当に駅まで追っかけて資料を届けてくれたこともありました」

北村さん 32 歳、田中さんと野本さんは 33 歳の年だった。

土地に聞いて見えた諏訪信仰の本質

——今井野菊さんからどのようなことを教わったんですか？

「野菊さんも在野の研究者で、とにかく『土地に聞いてください』と口癖のように言われたんですね。変に理論的・文献的なことより、とにかくその場に行って土地の上に立ち、じっと見、耳を傾ければわかりますよ、と。当時 74、5 歳だったと思うんですが、何十カ所ものミシャグジを案内してくださって、守屋山の山頂にも 1 回も休まずに登ったり。諏訪信仰は、根底にあるミシャグジというものを知らなければわかりませんよ、ということを徹底的に教え込まれました」

ミシャグジは、諏訪の村々や街中でも普通に見られる古い神だ。縄文以来の石棒や石皿をご神体とする祠も多い。

「ミシャグジとは何かというのは難しい問題ですが、一種の自然信仰で、樹木を伝わって降りてきたり、石に宿ったりする精霊みたいなものなのでしょうね。その精霊があらゆる物事に活力を与え、時

には崇めたりする。中世の文献でも、ものすごく重要なものとして扱われています。諏訪信仰の生き神様・大祝の即位式が行われる前宮の鶏冠社^{けいかんしゃ}では、樹木を伝わってきたスピリットのようなものが、いわば器としての少年大祝の中に、諏訪信仰のエキスとして宿るみたいな考え方があったと思います。これはまさに皇室の大嘗祭^{だいじようさい}と同じ考え方です。天皇は器で、そこに代々の天皇の靈魂みたいなものが宿るという。そんな大きなうねりの中に諏訪信仰はあるんですけれども、そういうものを取り込んで、独立してしまうようなふてぶてしさも感じますね(笑)」

古部族研究会は、研究の進展とともに多くの協賛者を加えていった。神長守矢家 78 代当主の守矢早苗さん(67 回)、考古・民俗学者の金井典美さん、考古学者・郷土史家の宮坂光昭さんなどなど。その成果は、『古代諏訪とミシャグジ祭政体の研究』(1975)、『古諏訪の祭祀と氏族』(1977)、『諏訪信仰の発生と展開』(1978)という 3 冊の本にまとめられた。

「若造の我々のやることを、出版社(永井出版企画)もよく出してくれたと思います。後になってわかったんですが、けっこう影響が大きかったんですね。中沢新一さん(宗教思想史家・人類学者)や山本ひろ子さん(思想史家)も若い頃に読んでくれていたみたいで。当時耳に届いていたら、もうちょっと諏訪とのかかわりが変わっていたかも知れません(笑)」

アジアで見た柱立て祭の数々

北村さんはその後、諏訪信仰研究は一段落と考え、アジア的な視野で物事をとらえようと、積極的に取材・撮影の旅に出るようになった。ところが……

「沖縄、韓国、あるいはインドやチベット、ヒマラヤ文化圏に行っても、不思議に柱というものが目についたんですね」

ヒマラヤの村々では、1 年に 1 度、村の中心の広場に柱を立て、そのまわりで衣服を裏返しに着て(日常を反転させて)

芸能を行う。ネパールでは山で木を伐採して曳行し、王宮の中央に王権のシンボルとして立てている。インドでも広場の中心に柱を立てて豊作祈願を行い、かつてはそこで人身供儀^{じんしんくぎ}を行っていた……。

「僕らが昔野菊さんに聞いた、諏訪の祭の伝説、西の祭の際に大祝の名代の少年・おこう様が殺されたとかというような話が蘇ってきて。アジアに生きた形で残されている柱の信仰を見ることによって、諏訪信仰の失われた部分が再構成できるような気持ちになりました」

北村さんが撮影してきた「ネパールの御柱」インドラ・ジャートラの映像は、諏訪市博物館で常時見ることができる。祭の空気は、まさに御柱そのものだ。

「諏訪の人たちは、御柱は諏訪だけのものと思っているかもしれませんが、そうではなく、アジアで普遍的に見られる、さらに価値の高いものですよということを映像で提供したんですよ」

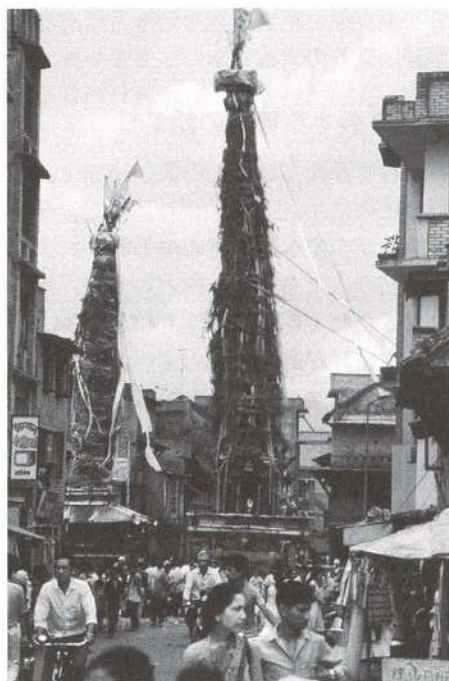
御柱で力を蘇らせる宗教都市

——では、諏訪の御柱の意味とは？

「古い縄文的な樹木信仰からきているのかもしれませんが。荒ぶる山の精霊みたいなものを里の神社まで引っ張ってきて、地域全体を守ってくれる守護神に変えるというような。上社の黒木の御柱は、曳いてくる間にだんだん皮がむけていきますね。あれは荒ぶる自然神が和魂^{にぞみたま}に変わっていくプロセスじゃないでしょうか。諏訪は 7 年に 1 度、本当に御柱一色になるけれど、曳く人も自ら荒ぶる神になり、その力によって諏訪全体がもう一度和やかに、自然との調和で生きていける。それを皆さん無意識に繰り返しているんじゃないんですかねえ」

北村さんは、毎回御柱に来るたびに、諏訪の御柱男たちの民俗的な知見の広さに驚かされるという。理屈っぽいとも言われるが、知性の高さは諏訪信仰と御柱によるかもしれないというのだ。

「諏訪研究は常に在野の研究者に引っ張られてきました。だからこれからも、特に清陵の皆さんには頑張ってもらいたいですね(笑)。諏訪の風土というのはやっぱりすごいもんだと思うんです。小さな盆地にすごい魂が充満している(笑)。四方を山に囲まれた中での爆発力みたいなものを常に持っていると感じますね。伊那と比べても米の穫れる土地ではないのに、伊那を従えているというのは、やっ



ネパールの雨乞い祭、ラト・マチャンドラナート。柱を立てた山車を引く



インド・オリッサ州の先住民族の村。中心に立つ柱は縄文の環状集落を思わせる



映画「ほかいびと」より。今秋ロードショーの予定

ぱり貢がれる立場、ある種の宗教都市みたいな感じなんでしょうねえ（笑）」

映画「ほかいびと」のメッセージ

北村さんが現在取り組んでいる映画は、幕末から明治初期に伊那を漂泊した俳人、井上井月をテーマとしている。撮影に4年をかけ、主演の舞踊家・田中泯さん以外は、すべて市民の出演だという。「『乞食井月』と言われたしらみだらけの俳人を、伊那の文化人は手厚くもてなしました。諏訪信仰圏は文化度も高かったんでしょうね。驚いたのは昭和13年、

二宮金次郎の時代に、『井月さん』という副読本を先生方が作って、伊那の全小学校で使っているんです。他の地域じゃちょっと考えられないですね（笑）」

北村さんはこの映画に、今の時代にこそ必要な人の絆の再構築、共同体の再構築というメッセージを込めている。地元ではそれを受け、いま『井月のまちおこし』に取り組んでいるという。

「今回の災害と原発問題では、日本人の理念みたいなものが危機に瀕しています。ピュアで人より気高いと思われていた自然が、敵意に満ちたものになってしまう。あれだけの漁業文化を持った地域が、信仰の場所も含めて全部流されてしまって。我々の諏訪や伊那だって、フォッサマグナの上に立つ、いわば空中楼閣ですよ（笑）。そこで私たちの根っこみたいなものを肝に銘じ、記録しておくことは、今後生きていく上でも絶対に必要なことだと思います」■

INTERVIEW 3 ● ものづくりの力

20年間あきらめずに「雖千萬人吾往矣」精神で

山崎俊一さん 80回生 (株)サンメディカル技術研究所社長



初出荷の当日、社長室にて

日本初の埋め込み型補助人工心臓『エヴァハート』については、お聞き及びの方も多いと思う。精密・電子部品の(株)ミスズ工業を傘下にもつ(株)ミスズ・サンメディカルHDの子会社、(株)サンメディカル技術研究所が、20年の歳月をかけて開発し、昨年12月に薬事承認を取得した最先端医療機器。資本も技術も純諏訪産の快挙である。その技術的特徴は、創意工夫を凝らした極めてシン

ブルな機構と、チタン削り出しによる0.1ミクロンμレベルの超精密加工精度にあるという。この『エヴァハート』を実現させた『諏訪力』とは、いったいどのようなものだったのだろうか。折しも初出荷日という2月25日、マスコミ取材が引きも切らない諏訪市四賀のサンメディカル技術研究所本社に、山崎俊一社長を訪ねた。

二男・山崎健二医師の発想から

——初出荷おめでとうございます。しかし、今日この日まで20年間、売上のなかった事業ですよ？

「そうですね、そのとおり（笑）」

——どのような経緯で、これほどの長い挑戦に立ち向かわれたのですか？

「まずは、たまたま僕らが男三人兄弟で、みんな清陵なんです（笑）。僕が名前のおお長男で、一番下の山崎泰三（83回）が、今ミスズ工業の社長をやっています。ところがまん中の山崎健二だけが、

山崎家としては突然変異的に医者になりました（82回・医学博士：東京女子医大心臓血管外科主任教授）。心臓外科医をめざして東京女子医大に入局してしばらくたったときに、人工心臓、今のエヴァハートの原型をふとひらめいて考案したというのがきっかけです」

その発想が世界に先例のないユニークなものだとわかったものの、メディカル機器製造についてはまったくの素人だった山崎さんたちは、自分たちで作れるとは思えず、エプソンをはじめとする大手企業にその開発を持ち込んだという。

「当然、けんもほろろに門前払いを食らいまして（笑）。そこで山崎家として、この着想が本物かどうか確かめるために、当時健二の主任教授だった小柳仁先生（現会社顧問・聖路加国際病院ハートセンター心臓血管外科特別顧問）のところに相談を持ちかけたんです。そしたら『山崎さん、これができたらノーベル賞ものですよ』って言われたんですね。それでも半信半疑で、『もし会社を作ったら、先生、顧問料なしで顧問になっていただけますか』って言ったら、『喜んでなりましょう』と（笑）。そこで、これは本当にできたらすごいんだと思ってサンメディカルを作ったわけです」

実はサンメディカル設立の前に、ミスズ工業の一事業部として取り組む構想もあったが、資金も時間もかかるだろうと考え、まったくのベンチャー企業を設立することになったという。

「後から思えばこれが大正解で、そうでなければ20年開発を続けることはたぶんどできなかったと思います。企業の一部門では、10年も20年もずっと赤字を垂れ流すことなんかできないですよ」

——資本はどうされたのですか？

「先々代がエプソンの創業者だったんですが、エプソンさんが上場してくれたお



エヴァハート本体。技術の粋を集めたチタン削り出しのシンプルで遠心ポンプだ
※エヴァハートは(株)サンメディカル技術研究所の登録商標です。

かげで、その株や父の持っていた株を売って開発資金に充てることができました。それなら、意義のある使い方だろうし、死んだ爺さんも文句は言うまいということで(笑)」

雖千萬人吾往矣が精神的支柱

——そうした決断の背景に『自反而縮雖千萬人吾往矣』の精神はありましたか？
「それはもう、ほんとに自分の精神的支柱、支えているベースですね。僕も最近講演会を頼まれることが多くなったんですが、サインにはいつもこの孟子の言葉を書いています」

——それは高校時代から？

「高校時代は、なんていうんでしょう、幕末みたいな激動の中で生きたいというような漠然としたものはありました。だけど僕は海外に出なかったんで、まずは諏訪を出たいというのが大学に行った動機でしたんで、あんまりほめられませんが(笑)。でも、清陵魂みたいなものはずっと持ち続けていたと思います」

バチカン大司教が『民』をやった！

そんな山崎さんが選んだのは、パンカラな校風の大学かと思えばさにあらず。なんと上智大学だったという。

「だからみんなに、おかしいやつがいるって言われて(笑)。提灯行列のときにも、のぼり旗に『自反而縮雖千萬人吾

往矣』と筆で書いて持って行ったりしていました。それと、ソフィア祭の前夜祭では、四谷のお堀の脇のグランドでファイヤーストームをやるんですね。そこでまたバカなことに『民』をやると言って、全然関係ないやつらを集めたんです。みんな面白がって、なんだなんだと。そこにピタウっていう当時の学長も来まして、『俺も入れろ』と(笑)。一緒に肩を組んで回ったっていう思い出があります。そのピタウって人は、バチカンの大司教になった人なんですけど(笑)」

(ヨーゼフ・ピタウ師は1968～1981年上智大学学長、1998～2004年ローマ・カトリック教会大司教)

諏訪の匠の力と中高一貫教育

——ところでミスズ工業では「匠」という言葉を前面に出されていますが、それはどのようなものとお考えですか？

「戦後の時計、カメラ等で培われてきた超精密部品の製造や組み立てですね、そういったところが諏訪の匠の世界だと思っています。だいたい諏訪は人口20万圏域なんですけど、中小企業が2,000社以上あるっていうんですね。ということは、100人に1人は社長っていうことなんですよ(笑)。いかに独立心が強い地域かっていう感じなんですけど。そういうところは、やっぱり技術がないと食っていけませんよね。それが集積されている非常に特殊な地域で。全国に目を向けてみても、あとは東京の大田区と大阪の東大阪市の二つぐらいしかありません。諏訪には、やっぱり歴史があるんでしょうね、縄文からの。そういったものが脈々と生き続けているような気がしますね。目には見えないんですけど、神様がいるのかもしれない(笑)。やっぱり諏訪人は、困ったときに自分で何とかしようっていうところが本能的にあるような気がします。エプソンだって、時計に使うICはどこにもないから自分たちで作っちゃったわけですし。そういう意味ではサンメディカルも同じですよ」

この後山崎さんは、日本経済にとって



諏訪市四賀の(株)サンメディカル技術研究所本社

のものづくりの変わらぬ重要さを熱く語ってくれた。美しい自然と豊かな水資源、円高が意味する国力、国民皆保険と治安のよさの価値、それらはものづくりによって支えられていること、そのものづくりは農業の技術であっていいはずだということ……。

「そういう技術を継承する担い手は子供たちなので、少子化になってきている中では、日本の中で競争するんじゃないって世界と競争できる子供たちを育てるっていう観点が必要だと思うんですね。清陵も中高一貫化するようですが、それは別に競争を早くからさせようという意味じゃなくて、国際的に通用する若者を世に出そうという趣旨だと思います。それをどしどし進めないと負けちゃいますよって気がします(笑)」

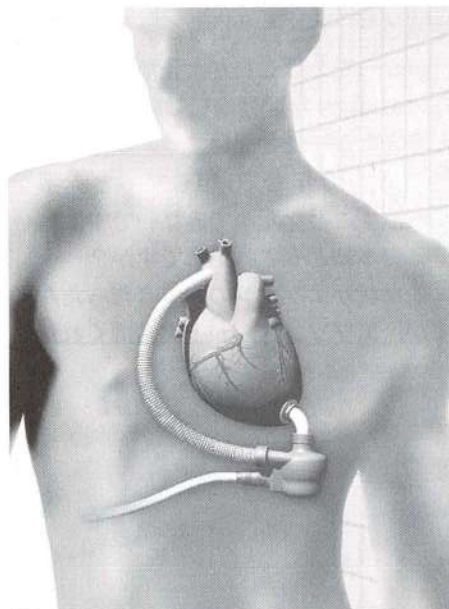
これからの諏訪経済は

——今、諏訪も景気が悪いですが。

「景気悪いという割には、製造業であまりつぶれたっていう話を聞かないですよ。やっぱりズクがあるというか、我慢強いんで、ちょっとやそつとで音を上げないというか、そういう気がします」

——今後は観光も伸ばしたいですよね。

「諏訪ではサービス業は下に見られますからねえ(笑)。でも、諏訪地域の温泉湧出量は、別府、登別に次いで全国で3番目なんだそうですね。それなのに、僕が浜の湯の副社長やってた頃、関西の旅行代理店さんに聞いたら、みんな『諏訪って温泉が出るんですか?』って言うんですよ。『えっ、知らないんだ!』って(笑)。『駅名も上諏訪じゃなくて上諏訪温泉にすればいいじゃないですか』とかいろいろ言われましたけど。もっともっと考えたいですねえ。花火もやっと夏場1カ月上げるようになったから、観光客も泊



エヴァハート埋め込み治療のイメージ。心不全の心臓を補助し、血液を全身に循環させる。体外の補助機から純水を機器内部に循環させ、長期にわたって作動させるシステムだ。(提供:サンメディカル技術研究所:前ページの写真も)

まってくれるようになりましたし。ネットで日本一の評価も得ましたが、それを活かすのがへたくそという気がしますね。本当は諏訪地域の行政が一つになって、もっと豊かになっていこうっていう動きがあってもいいと思うんですけど」

清陵教育に望むこと

——では、清陵教育かくあるべしというお考えはありますか？

「中高一貫になって6年間同じ仲間といわれるなら、徹底的に清陵の伝統をたたき込んでいただいて(笑)。それと、三澤勝衛のような自分で考える教育ですね。僕らもよく考えてみれば、学校の授業で教わったというより『自分で考えろ』と言われていたような気がして。大学みたいな高校だったと思います」

——スポーツについてはいかがですか？

「国力の話で言いますと、経済が強い国はスポーツも強いんですよね。やっぱり文武両道で、勉強ができてスポーツができるというのがいちばん高校に誇りが持てます。やっぱり『清陵に行かせたい』っていう高校にぜひ復活してもらいたいと思いますね。なんで諏訪にいて甲陵とか深志まで行かなきゃいけないのって気が

してしょうがないんですけどね(笑)」

諏訪明神が背中を押してくれる

——最後に、エヴァハートを開発された中で、これは諏訪らしいというエピソードがあればぜひご披露ください。

「そうですね、いっぱいありすぎて(笑)。とにかく、自分の心が萎えたら終わりだっていう気がしてましたんで、『きっと何とかする』って考えて動いていると、誰かが助けてくれたり、何か神風みたいなのが吹いたり、ほんとにもうダメかになっていうときに何かに助けられたって気がしましたねえ。僕ね、経営者でいちばん大事なのは運じゃないかと思うんですよ(笑)。運って誰も教えてくれないんです。運って不思議なもので、自分から何かいいことしないとよくならないんですよ。たとえば満員電車で席を譲るとか、そういうちょっとしたことをいつもやっている、最後の行き詰ったときに、後ろからポンと神様が背中を押してくれるような気がするんですよ。諏訪明神なんですかね(笑)。正しい矛盾のないことを真摯にやっていると、誰かが見て、ないしは神様がぴょんとやってくれるんですかねえ、そんな気がします」■



野球部の部室裏にひっそりと建つ三澤文庫

見下ろす野球部の部室裏、渡り廊下を抜けた先の、古タオルや紙くずなどが散乱した中に三澤文庫はあった。めったに訪れる者もないだろうことが見て取れた。

——で、三澤勝衛の研究を始めたの？

「いや、著作集は読んだんだけど、自分自身が研究者になろうとは全然思っていない。生徒になんとしても三澤勝衛の価値を伝えなきゃいけないってことだけなんだよね。で、最初は学友会誌に生徒に対するメッセージとして『三澤勝衛の居場所』っていう文章を書いた。人となり、この学校や諏訪に対してどんな意義を持っているかを伝えたかったんだ」

——反響は？

「全然ない(笑)。でも俺はやっぱ、清陵の教育の原点は三澤勝衛だろうと思うんだよね。三澤勝衛の理系教育がこの学校の中心だと思うんだ」

——だけど地理学って、人文科学じゃない。三澤文庫の蔵書を見ても、理系より文系のの方が関心を持ちそうだけど。

「それはね、『三澤勝衛先生』っていうみんなが書いたエピソードを集めた本があるんだけど、それを見ると、小学校の代用教員からはじめた三澤勝衛が旧制中学の教員試験を受けたとき、地理にしようか世界史にしようか迷ったっていうんだよ。だから大学で専門的に研究をやってきた人じゃなくて、興味関心があることには何でも入り込んでいくような人だったんじゃないか。そんな人間って清陵の人材の中に多いと思うんだけど、三澤勝衛はそのモデルなんじゃないかなあ。まあ、俺もそうなんだけど(笑)」

三澤勝衛再評価への道筋

——じゃあ石城は、この三澤文庫をこれからどうしていきたいの？

「まず思うのは、三澤勝衛への思いを何とか引き継いでいきたいってこと。今、文庫を日常的に世話してくれているのは、OBの金子佳正(51回)って方だけ

INTERVIEW 4 ● 三澤教育の力

新しいものを受け入れ常に変化していく諏訪の伝統

石城正志さん 78 回生 諏訪清陵高校教頭



三澤文庫にて

一昨年清陵に着任した石城正志教頭は、同窓生。幹事学年の78回生である。着任以来、戦前の諏訪中教育に大きな足跡を残した地理学者・三澤勝衛先生の再評価と三澤文庫の活用に関心を注いだ。石城は、これからの清陵教育に、そして『諏訪力』の発揮に、三澤教育をどう活かそうと考えているのだろうか。同

級生のよしみで、当番幹事・会報部会の石埜穂高が聞いた。

僕らの畏敬の対象が忘れられていた

——石城は高校時代から三澤勝衛に興味なんか持っていたっけ？

「いや、三澤文庫があって、ウシマサ(牛山正雄先生・35回)とか古い先生がそれを尊敬している風があって、っていうだけだったんだよね。本当に興味を持ったのは、2年前に清陵に教頭で来たとき(笑)。三澤文庫が今日見てもらったような扱いを受けていることにものすごいショックを受けた。自分たちが畏敬の念を持っていたものが、まったくもうそういう扱いを受けていない。これは何とかしなきゃと思ったのがきっかけ」

インタビューの前に、石城は現在の三澤文庫に案内してくれた。グラウンドを



三澤勝衛 1885～1937

なんだ。今、もう一回再評価して次の世代につながないと、本当に消えてしまう。生徒たちに改めて興味を持ってもらって、これをライフワークにしようっていう生徒たちを待つしかないと思う。これが教頭としてできる仕事だと思うんだよね」

——具体的には？

「今提案してるんだけど、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）も三澤勝衛の原点に戻したいの。たとえばアラスカでオーロラ観測したのも、実は三澤勝衛の太陽黒点観測の延長線上にあったんだけど、生徒たちにとってはアラスカに行けることが目的になっちゃって。三澤勝衛をちょっとかじれば、世界のことも宇宙のことも考えるんだけど、根っこはこの諏訪にあるってことが明らかになるよね。ところが生徒が実際にやってる課題探究には、地元根差したものがほとんどないんだ。だから三澤勝衛ってキーワードで、生徒たちの課題探究の目を地元に向かせたい。最近、御神渡のことをやりたいっていう生徒も出てきてるんで、芽は出てきたと思うけどね」

——それはうれしいね。

「もうひとつは、今の生徒たちって、世間が評価してないものを自分から評価できないんだよね。で、諏訪地域全体で三澤勝衛を再評価してもらいたいっていうことでやったのが、三澤文庫連続講座。地元で地理や地学のフィールドワークをやってる人にも話してもらった。5回やって、毎回2、30人の参加だったんだけど、半分は一般の人。残り半分はこれからSSHの課題を決めなきゃいけない生徒たちだったんだ。これもまだ芽に

過ぎないんだけど、最終的には三澤文庫を中心に、三澤勝衛を研究する定例的な研究会とかが立ち上がればいいなと」

三澤地理学は地域に有用だった

「俺は理科の教員じゃないから課題の中身までは生徒に言えないんだけど、たとえば、かつて三澤勝衛は生徒を使って、家で決まった時間に正しい方法で気温を測らせて、そのデータを持ち寄らせていたらしいんだ。もし今同じことをやったら、『気温の分布がずいぶん変わってる、なぜだろう』というような研究がいくらでもできると思うんだよね。地域を見直すことにもつながっていくだろうし。三澤勝衛はそういう集めたデータに基づいて、この地域ではこれが適当であるっていうような産業の提案をしていたんだよ。戦後の『東洋のスイス』って言葉も、実は三澤勝衛の『日本のスイスたれ』って言葉が元だと思うんだ。かつて諏中のいろんな研究が高く評価されたっていうのは、たぶんそれが非常に有用性があったからだと思うんだよね」

OBの力で科学会の復活を

——そういう研究を担っていた『科学会』が、僕らの頃の天文部や生物部、地歴部なんかの直接のルーツだよな。

「そう。俺はもっと言うと、三澤勝衛が興した科学会をもう一回復活できないかなと本気で思ってるんだよ。去年の理数系の部員は平均10人ちょっと。だから1学年では3、4人平均。だったら大きなくくりで科学会にしておいて、『今度これをやります』って言ったときにみんなでワーツと集まって一緒にやるみたいなほうが、はるかに面白いと思うんだ」

——中高一貫教育にも向いていそう。

「うん。今度の中学校部分は2学級しかないから、クラブがたくさん立てられないのね。高校とくつつけるしかない。だから最初は丁稚奉公みたいに先輩にくつついて何かやって、高校になったら『こんどは自分でやらしてもらいます』っていうことでいいと思うんだ。そういう形で天文気象でも何でも6年間やり続け

ば、相当なことができると思うよ（笑）。それからもうひとつ、今、理科振興基金というところから助成を受けて『研究紀要』というのを毎年出してるんだけど、これが残念ながらレベルが低いんだ。だからこれをいつの日か『科学会誌』くらいのレベルに引き上げて、本校における科学教育の基礎の部分で、成果として世間に出せないかなと思ってんだよね」

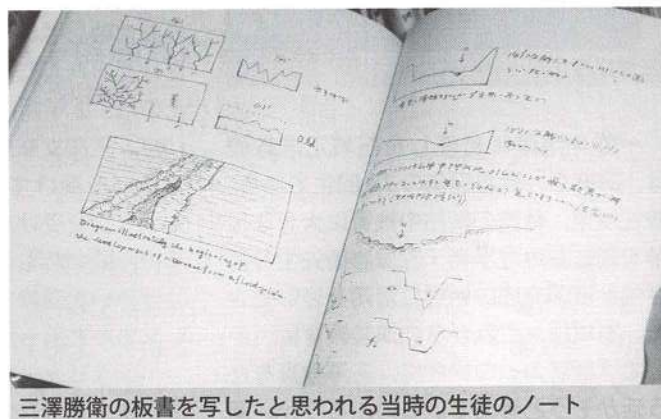
——地歴部考古班みたいに、文系でもそれができるといいなあ。

「そうそう。でもそうすると教員が大変になる。今の教員は受験の成果も上げなきゃいけないし、運動部も見なきゃいけないし、余裕がないの。だから、俺はOBが指導してくれることにも期待してるんだよね。この学校の一番の財産は、綺羅星のごとくいる優秀なOBたちだし、その活用なくして学校の再生なんてありえないと思ってる。そのときにみんなが納得できるキーワードは、やっぱり三澤勝衛だと思うんだ。そこから受け継がれたきらめきを、もう一回この学校が取り戻すために、ぜひ協力してほしいんだよね」

外の新しいものを受入れる諏訪人

「あともうひとつ、大事なポイントだと思うんだけど、三澤勝衛って諏訪の人じゃないんだよね。諏訪の人が一番嫌いな北信の人（笑）。だからエピソードとしては、着任後間もなく、もう教員やめたいって言ったらしいんだよね。鳴り物入りで来たから、よっぽど試されたんだろうね（笑）。ところがほどなく、『諏中の三澤か三澤の諏中か』って言われるようになった。だから諏訪人って、いったんいいものと思ったらすぽんと受け入れるような、そういう能力があるんじゃないかなと俺は思うんだ」

——井戸尻の小林さんも、縄文図像学の



三澤勝衛の板書を写したと思われる当時の生徒のノート

方法論を外から持ちこまれたものにさつと鞍替えしたと言っていたよ。

「だから、諏訪の人って議論好きっていうけどさ、論理的に正しいと思ったものにはけっこう従うんじゃないかと思うんだ。あと、ここに科学会の歴代顧問の名簿があるんだけど、半分以上が県外の人なんだ。よそ者でも『いいものはいい』ってことなのか……。もしかして建御名方以来の伝統なのかも（笑）」

諏訪のものづくりとの関係

——全国から優秀な人が集まる。今のものづくりだってそうなんだろうね。

「諏訪市ってさ、土蔵を壊す町で有名なんだって（笑）。普通は大事にするのにさ。諏訪人って、新しいものの良さを認めたら、それまで後生大事にしてきたものを平気で捨てられるのかもな。ある職員が、清陵の伝統って常に変わっていくことだって言ったんだよね。最もいい状

態に常に自分を作り変えていく勇氣。俺もそう思うなあ。形は変わっても精神は絶対に変えないっていうのが諏訪だ」と——諏訪って寒冷地で平地が少ないから、田んぼ1枚作るのにも自分で一から考えて工夫しないといけない。だから諏訪の人たちは、そのためのデータの取り方と考え方を教えてくれた三澤勝衛と相思相愛になったんじゃないかな。

「そうだなあ。そういえば今、諏訪市内の小中学校で、『相手意識に立つものづくり教育特区』っていうのをやってるんだけど、これもそうなんだよ。たとえば刃物の町だったら刃物をやる、焼物の町だったら焼物をやるんだろうけど、諏訪のものづくりはもう時計じゃないし、特定の分野がないんだって。どんな企業も、持てる技術を時代時代の相手が求めるものに合わせて、自らどんどん変わっていく。だから『相手意識に立つものづくり』なんだって。これも関係するねえ」 ■

られ、御柱男たちが諏訪の平を支配します。巨木を人力だけで曳き立てる古代さながらの技術を持っているのは、現代社会の中で御柱男たちだけだからです。

しかし、北村さんが「荒ぶる神」と呼ぶこの御柱男たちも、ふだんは商工自営業者やサラリーマン。つまり、諏訪の商工自営業者やサラリーマンは、7年に1度「荒ぶる神」——土人に返るのです。

自然と乖離し過ぎたが故に、自然との調和や自然回帰が強く求められているこの現代社会。「荒ぶる自然神」の力を手応えとして知っている僕らは、なんと幸福なのでしょう。サラリーマンでも「土人」でいられる、大地に根ざしていられるのが諏訪なのです。

『ズク出すじゃあ』

北村さんのミシャグジの話を知っていて、筆者はミシャグジとは「ズク」の神ではないかと思いました。ミシャグジ……宿神……ズク神。正しいかどうかは別として、この「物事に活力を与える精霊」を、諏訪人は無意識に操っているのかもしれないと思います。ズクなしの人だって、「さあ、ズク出して片付けるか」と言えるのですから。人の命や力には限りがあるのだから、自然＝神様から力をもって働く、というイメージです。正しいことを真摯にやっていれば、最後に神様がボンと背中を押してくれるという山崎さんの言葉が印象的でした。

昨年、小惑星探査機「はやぶさ」の帰還が大きな話題になりました。第一線の科学者・技術者が、「はやぶさよ、返事をきかせてくれ」と、一心に願い、通信を続けたのです。欧米の技術者たちは、「壊れた機械にあれば執着するとは信じられない」と言いました。モノに心を認める日本人の心性は、自然信仰、アニミズムに基づくもの。「匠の技」にも「もったいない」にも通じます。一神教の文化を持った（ズクなしの）欧米人は、自然に対して人間が絶対優位と考えるので、なかなか理解ができないのです。

経済至上主義が明らかに限界を迎えたと思われる今、その自然信仰の「本場」である諏訪だからこそ、新たな時代の真の幸せを、世界に提案できるのだと思います。さあ、今こそ「ズク出すじゃあ！」

最後に、筆者のコンセプトを信じて任せてくれた同期幹事会の皆さんと事務局の皆さんに、深甚の感謝を捧げます。■

まとめ●『諏訪力』の可能性

諏訪から発信したい3つのキーワード

石壁穂高 78 回生 コミュニケーションデザイナー

たまたま取材・編集のスキルを持っていたため、特集を任される光栄に浴しました。「諏訪力って、あるはずだよ」というぼんやりした期待を持って、4人の方へのインタビューに臨みましたが、今、その期待が確信に変わったと感じています。それを3つのキーワードに託し、まとめに代えさせていただきます。

『井の中の蛙力』

井の中の蛙大海を知らず。この言葉は「お山の大将」と同様、悪い意味に使われています。けれど現在、グローバリゼーションと情報のシームレス化により、僕らは誰も「井の中の蛙」でも「お山の大将」でもいられなくなりました。子供のころから偏差値の「大海」の中に投げ込まれ、自分の「分」を否応なく思い知らされます。だから、「自分ができるのはこれだけなので、他のことについては関知しません」という大人ばかりになってしまうのではないのでしょうか。

諏訪は、清陵は違いました。僕らは箱庭のような盆地の中で、まさに「井の中の蛙」として、科学や社会の真理につい

て、天下を取ったかのように論じ合いました。その結果身についたのは、「何でもとりあえず一から自分で考えてみる」習慣でした。三澤教育の名残でしょうか。先入観や常識にとらわれない「雖千萬人吾往矣」の精神と言っているかもしれません。インタビューの中で何度も出てきたこの気風は、世の中の枠組みを一から見直さざるを得ない今こそ、いっそうその重みを増してきていると思います。

『土人の誇り』

実は4人の方のお話を伺いながら、毎回必ず脳裏に浮かんできたのがこの言葉でした。「土人」という言葉が気になりはじめたきっかけは、昨年の御柱期間中、インターネット上のある掲示板で見た書き込みでした。「あんな野蛮なものは土人祭りだ、やめちまえ」という悪口で盛り上がっていたところに、諏訪の若者が応酬したのです。「そうだよ、俺たち土人なんだよ。知らなかったの？」と。

まさに『土人の誇り』です。

御柱の期間中、近代社会のシステムを司っている行政や警察はわき役に迫りや



母校の発展を願って

同窓会長
松下 勲 (59回)

会員各位におかれましては、益々ご清栄にてお過ごしのことと拝察申し上げます。平素は、同窓会の活動に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。併せて、この度の東日本大震災により、お亡くなりになられた多くの方々に謹んで哀悼の意を捧げ、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。

さて、本同窓会の目的に沿い母校の発展とともに地域の経済や教育・文化の発展と向上を願う思いは人後に落ちないものがありますが、近年諏訪地域小中学生のいわゆる流出現象が拡大し、同窓会としても喫緊の課題として受け止めてきました。そこで、平成18年に「母校の発展を支援する会」を立ち上げて研究を進め、昨年1月には県外の公立併設型中高一貫教育校4校を正副会長が視察し、6年間の系統的な学習環境のなかで生徒たちが伸び伸びと学ぶ姿や、きめ細かな進路指導によって一人ひとりに確かな目的意識が涵養される教育を視てきました。このような視察結果やこれまでの研究・協議の経緯を踏まえ、常任幹事会および幹事会において母校への併設型中高一貫教育の導入についての賛成を決議し、平成22年度定期総会においても引き続き支援してゆくことを固めました。そして、母校や県教育委員会などの動向と合わせ、同窓会常任幹事会の議決を経て正副会長が県教委に赴き、母校への併設型中高一貫教育の導入を積極的に推進してほしい旨の要望書を提出し、1月27日定例の県教育委員会において、平成26年4月に中南信地区のモデル校として開校することが決まりました。母校が中高一貫教育の導入により、教育目標である「高い学力」「広い視野」「強い意思」が培われ、実りある教育が推進されるよう今後も支援してゆきたいと思っております。

次に財団法人諏訪清陵会についてであります。先般、社団法人・財団法人など公益法人の制度改革が示され、平成25年12月からの新制度への移行が課題となっております。

現在、本財団では、育英事業、クラブ活動備品購入助成等の教育振興事業、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業等への教育研究助成事業など、後輩の生徒諸君の学習環境をより良くするための支援をしております。本財団は、制度上は「学術及び科学技術の振興」と「教育、スポーツ等、国民の心身の健全な発展への寄与」などに該当しておりますが、新公益法人認定基準によると、対象者が母校の生徒に限定されている現状のままでは認定が困難と考えられます。そこで、本財団では関係役員会などをとおして随時検討を重ね、引き続きこれまでの事業が継続できるよう非営利型の一般財団法人に移行することを決定いたしました。

今後とも本同窓会の目的に叶うよう会員相互の親睦を図り、併せて母校との関係を一層密にし、その発展に尽くして参りたいと思っております。会員各位の変わらぬご厚情をお願い申し上げますとともに、皆々様の益々のご健勝とご多幸をご祈念いたしております。



Tempus Fugit

学校長
佐藤 尚登

3月末をもって退職された篠原秀郷校長の後任としてお世話になっております。同窓生の皆様におかれましては、日頃から母校の教育振興のために物心両面にわたる温かいご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

さて、先の東日本大震災は4月28日現在、いまだ被害の実態も明らかでなく、また福島原子力発電所の事故収束までにはまだまだ長い時間がかかるようです。気になって校長室の同窓会名簿を繰ってみますと、決して数は多くないものの、各回期とも何名かの同窓生の方が東北地方をはじめとする被災地やその付近にお住まいです。被害に遭われた皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、対策に奔走されている皆様に対しましては、敬意と感謝を表する次第です。

私は北信の出身ですが、諏訪地区での勤務は昭和55年からの7年間に次いで2回目となります。以下のことは着任に際して職員と生徒諸君に話したのですが、同窓生の皆様にもお伝えし、清陵に対する私の思いを知っていただければと存じます。

昭和55年の夏、生徒会顧問として文化祭用の暗幕の貸借に関する業務で、旧校舎の社会科研究室を訪れた私は、一人の生徒の質問の様子を目にしました。記憶では、坊主頭で日焼け顔の、肩掛けカバンをした男子生徒でした。彼の質問は「古代文明は、中国もインドもエジプトもみな統一国家形成までいくのに、なぜギリシアではポリス分立状態が続いたのか」というものでした。先生は「いいところに気がついたな、それは…」と、説明をし始めたところで私は社会科研究室を後にしてしまいましたが、「清陵の生徒は、教科書に書かれていないことを発見し、それを解明しようとするのだ」という強い印象を受けました。高校での勉強が、体系化された知識を効率的に記憶して、試験でそれを吐き出すことをもってよしとするならば、彼の疑問はあるいはムダなのかもしれません。しかしそうではない、いわば「骨太な高校生の勉強」を目の当たりにしたことはその後も記憶に残り、3月清陵への異動を命じられたとき、真っ先に頭に浮かんだのは30年以上前の、この情景でした。

着任後1カ月を経て、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の事業をはじめとするいくつかの行事における生徒諸君の行動や、研究室に質問にくる様子を見てみると、あの生徒の学びの姿勢は現在も脈々と受け継がれているように思います。その意欲、関心を大事にした骨太の教育活動こそが清陵の果たすべき役割であることを、改めて肝に銘じた次第です。

表題の「Tempus Fugit」は、50回生の皆様のご惠贈になる校長室のホール時計（これは電動ではなく、分銅を鎖で引き上げその自重で動く機械式の貴重なものです）の文字盤の上に書かれた言葉です。ラテン語で「時は飛ぶ」という意味だそうです。本校は平成26年に附属中学校を開設いたします。準備のための時間は3年を切りました。時計を見るたびこの言葉を思い起こし、準備に万全を期すべく励んで参る所存ですので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます、着任のごあいさつといたします。



伝統の創造力みたび

前学校長

篠原 秀郷

穏やかな早春の陽光が諏訪の地に戻ってまいりました。

諏訪清陵高等学校同窓会々員の皆様におかれましては、新年度を迎え、愈々ご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。

さて、このたび諏訪清陵高等学校を最後に34年間の教員生活を終え、古里南佐久郡小海町に戻り、新しい生活を始めることとなりました。3年間、同窓会の皆様の暖かいご支援を賜り、心置きなく勤務させていただきました。紙面をお借りして感謝申し上げます。

退任した今、このような思い出とともにこのように諏訪清陵高校で時間を過ごしてきた、と語る言葉を準備してこなかった不覚を痛感しております。また他方で、平成22年度の卒業式で引用した、脳科学者の茂木健一郎さんの次のような言葉にも、この間の弁明を見出して慰めとしていることも事実です。

『ある体験の痕跡が自分の生き方や世界観に影響を与えるためには、その痕跡は思い出すことのできるエピソードとして立ち上がっている必要はない。記憶というのは、それが思い出せるかどうかが本質なのではない。むしろ思い出せないからこそ切実な記憶というものがある』(新潮社「脳と仮想」)

茂木さんの言葉に従えば、本校で過ごした時間のどこかに紛れた「思い出せない記憶」こそ、「生き方や世界観」のごときものとなって現在の自分の言葉や行動に陰影を与えているに違いない、ということになります。無論、「思い出せない記憶」のほとんどは、多くの生徒や職員、そして同窓生の皆様との有形無形の関係の集積に由来していることは言うまでもありません。

さてこの3年間、校長として生徒や職員に語り、実行しようとしてきたことは、「伝統を未来の創造に生かす」という言葉に尽きると今にして思います。

言うまでもなく本校は、諏訪地域を代表する公立進学校として、地域の皆様の負託に応える責務があります。そのために、新しい時代の変化を主体的に受け止め、柔軟に未来を切り拓く自由闊達な精神が強く求められます。伝統の形式的な遵守は傲慢と脆弱の謂いに他なりません。勇気を奮い、現在を相対化する営みの内に、はじめて未来は姿を現すことになるからです。校是とする「自反而縮雖千萬人吾往矣」の眼目は、「自反」する精神の広さと深さにこそ在ると信じます。

平成26年4月に開校する附属中学は、真に「伝統を未来の創造に生かす」ため、「高い学力」「広い視野」「強い意志」を21世紀の現実のなかで育むことを理念としています。これは、果敢な変革を厭わない諏訪清陵高校ではじめて可能であり、長野県における中高一貫教育のモデルとなるに違いありません。

諏訪清陵高校と同窓会の益々のご発展と同窓会々員の皆様のご健勝を祈念し、この間の変わらぬご厚誼に感謝申し上げ退任の挨拶と致します。有難うございました。

学校だより

4月6日、新入生242名(男子145名、女子97名)を迎え、全校生徒729名(男子427名、女子302名)、教職員63名で、平成22年度がスタートしました。

年度末には東日本大震災があり、日本という国そのものの、これまでと、これからが問われる事態となりましたが、生徒たちは敏感に反応し、学友会では、いち早く募金活動を行い、わずか5日間で14万円余りを集め、日本赤十字に届けました。

そんな生徒たちの活躍を中心に、この1年間の学校の様子をお届けします。

運動系クラブ

野球部は、春季北信越大会県大会に進出し、ベスト8まで勝ち進みました。

春の高校総体では、陸上、剣道、男子バスケ、女子バスケ、水泳の各部が県大会に進出し、陸上部の古川雄大君(3年)は400Mハードルで6位、水泳の二村史彦君(3年)は50M自由形で4位となり、北信越大会に出場しました。

端艇部は、北信越大会において、男子シングルスカルA決勝で山崎正三郎君(3年)が2位、女子ダブルスカルA決勝で栗林紅さん(3年)、辻村朋子さん(3年)が2位、男子ダブルスカルB決勝で三澤駿太君(3年)、駒形有生君(2年)が4位、女子クオオドルA決勝で武田優衣さん(3年)、有賀麻衣さん(2年)、關萌季さん(2年)、大槻菜奈さん(2年)が4位、男子クオオドルB決勝で、味澤嘉和君(3年)、梶谷嶺君(3年)、河西裕紀君(2年)、後藤貴央君(2年)、伊藤健太君(2年)が2位となり、女子総合3位、男子総合8位の好成績でインターハイ出場を果たしました。

秋の新人大会では、陸上、剣道、男子バスケ、女子バスケ、ソフトテニス、男子硬式テニス、女子硬式テニス、バドミントン、男子バレー、ハンドボールの各部が県大会に進出し、特に剣道男子団体とハンドボールは、南信大会優勝に輝きました。

サッカー部は、県U-21ユースリーグ2部で2位となり、上位チャレンジ決定戦に進出しました。

端艇部は、中部選抜大会において、男子ダブルスカルで、駒形有生君(2年)、土田燎野君(2年)が3位、女子クオオドルで、高原美沙さん(2年)、有賀麻衣さん(2年)、藤森まいこさん(2年)、關萌季さん(2年)、大槻菜奈さん(2年)が3位となり、全国選抜大会出場を決めました(残念ながら震災の影響により大会は中止となりました)。

冬の高校総体では、スケート部の野口真紀子さん(2年)が、県大会フィギアで優勝し全国大会出場を果たしました。

また、部はありませんが、野澤正子さん(2年)が高校総体の体操競技で県大会に進出しました。

文化系クラブ

美術部は、高校生・中学生クリエイターコンテスト2010において、漆原さくらさん(2年)がグランプリ他を、宮澤絢子さん(2年)が佳作を、松坂朝子さん(2年)がターナー色彩賞を受賞しました。

古典ギター部は、全国ギターマンドリンフェスティバルにて優秀賞を受賞しました。

フォークソング部は、高等学校軽音楽系クラブ合同演奏会において、2バンドが県大会に進出し、vividが審査員賞を受賞しました。

音楽部は、名取秀嶺君(2年)が全国総合文化祭に南信リーダーズコールの副団長として参加し、文化奨励賞を受賞しました。

吹奏楽部は、長野県アンサンブルコンテスト高等学校の部においてクラリネットチームが県大会に進出し、銀賞を受賞しました。

将棋部は、県大会において中村健志君(1年)が4位、守住遼君(1年)が5位入賞を果たしました。

書道部は、信州書道展において最優秀校を受賞。田中真優子さん(2年)は最高賞である文部科学大臣賞に輝きました。全日本書道コンクールでは優良校となり、浜沙由美さん(2年)は雁塔聖教序賞を受賞しました。県展では3年連続特選を輩出しています。

イングリッシュ部は、昨年に引き続き英語ディベート全国大会に出場し、14位と健闘しました。

かるた部は、全国大会D級(無段の部)において、植松真意子さん(2月)、塩澤竜弥君(3月)、長谷川久子さん(7月・選手権大会)、平出真帆さん(9月)がそれぞれ優勝し、11月の全国大会では奥村雪菜さんがC級3位となりました。また、12月の北信越大会では団体戦準優勝となりました。

自然科学系クラブは、1年生が多数入部し、例年のほぼ2倍の60人余となり活動が活性化しました。今後の成果に期待が持てます。

学生会行事

4月の対面式、新入生歓迎会、春のクラスマッチにはじまった生徒会行事は、清陵祭で最高潮に達し、その後2年生へと引き継がれ、伝統の端艇大会、湖周マラソンを行いました。

第60回清陵祭は、7月2日から4日間行われました。テーマは「崑崙」で、高くそびえ立つという意味があり、清陵祭が堂々とした誇るべきものになり、清陵生が高い志や鋭い知性を備えて、人間的に大きな人物に成長する起点になってほしいとの思いを込めたそうです。

1日目(前夜祭)は、仮装行列登校にはじまり、仮装コンテスト、談話会、美人(女装)コンテスト、地方会劇と盛りだくさんの行事が行われました。

2日目の午前中には、開催式、文化講演会が行われました。文化講演会は、少年サンデーなどの編集を手がけた武居俊樹

氏(63回)を講師に、「赤塚不二夫とあだち充」と題してご講演いただきました。

2日目午後から3日目にかけては一般公開され、教室やステージを使ったクラブやSSH講座の展示発表や演奏会、コモンスペースを中心とした娯楽企画や喫茶、恒例のバスケット部のOB戦などが行われました。例年と異なったのは、娯楽的なものに変質してしまった談話会に変わる真剣な討論の場として討論会の時間が設けられたことです。

4日目(後夜祭)は、午前は合唱コンクールが、午後は運動会が行われました。合唱コンクールに懸ける3年生の意気込みは近年ますます高まり、いずれ劣らぬ熱唱の結果、クラス対抗の部では3年2部と3年3部が優勝を分け合いました。

夕刻からは、ファイアーストームの炎とともに青春の想いを燃え上がらせ、最後は泥まみれとなり幕を閉じました。

端艇大会は、9月6日、下諏訪漕艇場において開催されました。好天に恵まれ、男子は3年2部が、女子は2年3部が、混合は3年5部が優勝し、3年5部が総合優勝に輝きました。

第97回湖周マラソンは、10月21日(木)、15人のOBランナーの皆さまも参加し、ともに健脚を競い合いました。うしまさ坂では、恒例のレモン配布を「うしまさ坂の碑保存会」の皆さまを中心に行っていただきました。生憎の雨模様でしたが、男子は田中雅己君(2年)が、女子は雨宮美宇さん(1年)が優勝に輝きました。

学校行事・授業など

学校では、春と秋、土曜日に授業公開を行っていますが、秋の授業公開(10月16日)にあわせてPTA講演会が行われました。昨年の山崎壯一氏(51回)に引き続き、同窓生の石城謙吉氏(57回)を講師にお招きし、「私の歩んだ道—清陵高校で育くれたもの」と題してご講演いただきました。なお、平成23年の授業公開は5月21日、10月15日です。興味のある方はぜひ御参加下さい。

また、毎年分野別に多くの講師の方をお迎えして行われる進路講演会(2学年主催)では、同窓生である、八巻和彦氏(69回・早稲田大商学学術院教授)、岡村和彦氏(78回・クリンビー社長)、片倉隆幸氏(78回・片倉隆幸建築研究所主宰)、清水京子氏(78回・東京女子医科大学医学部准教授)、原田昌彦氏(83回・東北大学農学部准教授)にもご協力いただきました。

また、音楽の選択授業を通して参加した中山晋平記念音楽賞の作曲募集高等学校の部で、奥住大輔君(2年)が優秀賞を受賞し、あわせて学校奨励賞を受賞しました。

最先端技術にはロマンがある

理想を追求した **イズカットトランス**™

ノイズ障害防止の切り札で、近未来に先駆けるトランス型ノイズ防止素子です。



高度情報化社会のアキレス腱=不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす

株式会社 電研精機研究所

創業者(工博) 矢ヶ崎昭彦(47回)

本社：〒203-0042 東京都東久留米市八幡町1-4-21 TEL 042-473-3745(代) FAX 042-474-0613

大阪営業所：〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-7-5プロスペリタ四ツ橋 TEL 06-6538-1118(代) FAX 06-6538-2777

ノイズトラブル相談室 ノイズトラブルに関するご相談・調査・技術援助等を承ります。URL <http://www.denkenseiki.co.jp/>

スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

SSHは、平成23年度より新たに5年間の指定をうけ、3期目の事業をスタートしました。

今期は、あらためて三澤勝衛の科学教育に光を当て、その原点に立ち返り、将来に向けて活かすこととし、これまでの8年間の成果を大切にしながら、SSHの全校生徒への拡大、科学系部活動やコンソーシアム（共同研究）などの継続性の高い研究活動への支援強化といった新たな研究開発事業に取り組むこととしました。

主な活動は、SSH講座生徒（3年26名、2年17名）による課題探究とその成果の発表、大学・企業との連携講座（28回）、アラスカにおける海外科学セミナー、サイエンスフォーラムでした。全校生徒が参加し地域にも公開しているサイエンスフォーラムは、以下の3回を実施しました。

期日	講 師	内 容
8.21	有賀寛芳 北海道大学大学院薬学研究科教授（72回）	ガンとパーキンソン病～異なる疾患の共通性と治療薬を求めて
10.9	菅野米蔵 株式会社アイプラス代表取締役	知的探求心と社会的使命～広い視野から柔軟な発想で課題に挑戦～
1.22	吉田直紀 東京大学数物連携宇宙研究機構特任准教授	暗黒宇宙に生まれる星、銀河、ブラックホール

活動のなかで特筆すべきはコンソーシアムやそれに付随する学会での発表において高い評価をいただけるようになった点です。

天文気象部は、高知県小津高校主催のスプライト観測に参加しているほか、日本地球惑星科学連合大会の高校生ポスター発表では、極地での高野豆腐の製造の研究を発表し、優秀賞を受賞しました。

生物部は、鹿児島県錦江湾高校主催のダイコンの多様性の研究に参加し、国際学会である International Conference on Arabidopsis Research で、大人にまじってポスター発表の機会を与えられ、日本植物生理学会年会高校生生物研究発表会でも発表の機会を与えられました。

3月5日第63回卒業式が行われ、239名（男138名、女101名）が旅立ちました（114回生）。進学先は表のとおりです。

また、3月23日（水）の離任式では、篠原校長をはじめとする14名の先生方をお送りしました。

平成22年度末 教職員人事異動

転・退職職員

新任職員

氏 名	転出先等	氏 名	前任校等
篠原 秀郷	退職	校長 佐藤 尚登	県高校教育課
		教頭 佐倉 俊	県教学指導課
細尾 俊彦	職員団体専従	国語 功刀 裕	野沢北高
丸山由起子	諏訪実業高	国語 細川 恒	松本深志高
		国語 両角 弥恵	辰野高
矢花 和成	大町高（非）、松本予備校	社会 田多井伸次	豊科高
矢澤 正章	山梨県都留高	理科 伊藤 広昭	木曾青峰高
井口 智長	総合教育センター	理科 伊藤 泰	松本蛾ヶ崎高
		理科 久松 俊雄	諏訪二葉高
田中 隆	伊那弥生ヶ丘高	体育 佐々木英雄	辰野高
荻原 梓	富士見高、諏訪二葉高	書道	
笠原 敏彦	伊那北高	英語 仲林 聖	東御清翔高
木下めぐみ	茅野高	養護 久保田亮子	茅野高
山崎 典英	企画課	事務長 小口 稔	税務課
森山 妙子	茅野高	司書 清水満里子	祝輪進修高
後藤 憲明	諏訪養護	事務 宮坂 賢一	富士見高
向山 悠紀	退職	SSH 水野 真帆	高文連事務

平成22年度入試結果

卒業生数：239 就職者数：1 進学者数：162 進学率：67.8%

国立大学	現役生	過卒生	合計
北海道	1	2	3
東北	1	2	3
山形	1		1
茨城	1	1	2
筑波	5		5
宇都宮	1		1
埼玉	1	1	2
千葉	3	4	7
お茶の水女子	1		1
電気通信	1	1	2
東京	2	1	3
東京外国語	3	1	4
東京学芸	2	1	3
東京工業	1		1
一橋	1		1
横浜国立	4	2	6
富山		1	1
金沢	1	1	2
福井		1	1
山梨	1	3	4
信州	29	6	35
静岡	6	1	7
愛知教育	1	1	2
名古屋	3		3
名古屋工業	1		1
三重	3	1	4
滋賀	1		1
京都		2	2
奈良女子	2		2
鳥取		2	2
岡山		1	1
広島		1	1
徳島		1	1
琉球	1		1
国立大学合計	78	38	116

公立大学	現役生	過卒生	合計
青森公立	1		1
高崎経済	2	1	3
国際教養		1	1
群馬県立女子	1		1
首都大学東京	2	2	4
横浜国立	2	2	4
富山県立	1		1
金沢美術工芸		1	1
都留文科	2	2	4
山梨県立	2	2	4
長野県看護	3	1	4
岐阜薬科		1	1
静岡文化芸術	1	1	2
愛知県立芸術	1	1	2
名古屋市立	1	1	2
滋賀県立	1	1	2
奈良県立	1		1
公立大学合計	21	5	26

私立大学	現役生	過卒生	合計
岩手医科		1	1
国際医療福祉		1	1
高崎商科		1	1
東京福祉	2		2
高崎健康福祉	1		1
了徳寺		1	1
埼玉医科		1	1
城西		2	2
獨協	7		7
文教	3	2	5
神田外語	1		1
淑徳	1		1
帝京平成	2	2	4
東京医療保健	1		1
青山学院	8	3	11
大妻女子	2		2
桜美林		1	1
学習院	2		2
北里	2	6	8
共立女子		1	1
杏林	2	1	3
慶應義塾	2	5	7
工学院	2	3	5
國學院	2	8	10
国士館	3		3
駒澤	4	2	6
実践女子	1		1
芝浦工業	9	2	11
上智	5	1	6
昭和		1	1
昭和女子	1	1	2
昭和薬科		1	1
成蹊	1	2	3
成城	1	1	2

私立大学	現役生	過卒生	合計
専修	4	2	6
大東文化	1		1
大正	1		1
高千穂		1	1
中央	16	15	31
津田塾	1		1
帝京	5	2	7
東海		1	1
東京音楽	1		1
東京家政	1		1
東京経済	1	5	6
東京工科	5		5
東京女子	1	2	3
東京電機	2		2
東京農業	1	1	2
東京薬科	1	2	3
東京理科	5	10	15
東邦		2	2
東洋	3	4	7
日本	10	6	16
日本女子	4	1	5
法政	8	12	20
星薬科		1	1
武蔵	2		2
武蔵工業		1	1
武蔵野	2	3	5
明治	9	16	25
明治学院	4	2	6
明治薬科		1	1
明星	1		1
立教	12	9	21
早稲田	22	11	33
神奈川工科		1	1
神奈川	1	2	3
フェリス学院	1		1
新潟薬科		1	1
金沢工業		2	2
帝京科学		1	1
山梨学院	3	1	4
山梨英和	1		1
佐久	1		1
松本	2	2	4
日本赤十字豊田	1		1
名古屋学芸	1		1
愛知学院		1	1
愛知淑徳	1		1
相山女子学園	1		1
中京	1	1	2
名古屋女子	2		2
藤田保健衛生	1		1
南山	5	2	7
日本福祉		2	2
名城	2		2
京都外国語	2		2
京都産業	2		2
京都女子	1		1
京都薬科	1		1
同志社	3	4	7
同志社女子	1	1	2
佛教	1		1
立命館	13	8	21
龍谷		1	1
関西		1	1
近畿	1	1	2
関西学院		2	2
福岡		1	1
産業医科		1	1
私立大学合計	237	194	431

国立短大	現役生	過卒生	合計
長野県短大	1		1
国立短大合計	1		1

私立短大	現役生	過卒生	合計
飯田女子		1	1
青山学院女子	1		1
立教女子学院	1		1
私立短大合計	2	1	3

文科省所管外	現役生	過卒生	合計
海上保安大学校	1		1
海上自衛隊航空学生	1		1
文科省所管外合計	2		2

専門各種学校	現役生	過卒生	合計
諏訪日赤看護専	2		2
エブソン情報科学専	1		1
文化服装学院	1		1
エスモードファッション	1		1
その他		4	4
専門各種学校合計	5	4	9

中高一貫教育に向けて

学校長 佐藤 尚登

本校では、平成22年10月7日、長野県教育委員会に対して中高一貫教育導入の検討を求める意見具申を行いました。

このなかで、本校の目指す中高一貫教育の理念を以下のように表明いたしました。

(1) 116年の伝統に培われた「高い学力」「広い視野」「強い意志」を基礎に、21世紀の社会に貢献できる優れた人材を育成する。

○将来の研究活動や社会貢献につながる重厚な教養主義による確かな知性の伸長

○探究的な学習による深い思考力と主体的に学ぶ力の涵養

○6年間の計画的な進路学習による将来を展望する構想力と自立心の育成

(2) 生活全般を通して多様な経験を積む機会を設け、豊かな人間性や公共性、社会性を育む。

○社会の人々とのふれあいをとおした、共同意識やコミュニケーション能力の育成

○幅広い年齢集団の交流を活用した、協調性や指導力の涵養

県教育委員会は、これを受け、「中南信における併設型中高一貫校の設置計画（案）について」を発表し（11月4日）、意見公募（パブリックコメント）と、諏訪市、伊那市、松本市における地域懇談会を実施し、それらを踏まえ、第919回教育委員会定例会（平成23年1月27日）において、本校の併設型中高一貫校への転換を正式に決定しました。その主な内容は以下のとおりです。

①平成26年4月1日設置・転換

②2学級80人募集（男女同数を基本とする）

③通学区域は中南信全域（自宅からの通学を基本とする）

④選抜方法は、適性検査の成績、小学校から提出された報告書の内容、面接の結果を資料とし、6年間の中高一貫で学ぶ意欲や適性等について総合的に判断する。

さらに、3月18日には、「諏訪清陵高等学校附属中学校（仮称）の開設準備について」を公表、開設準備体制と開校に向けたスケジュールを示しました。

これにより、本年度から本校に義務教育出身の教頭が配置され、準備室が設置されました。今後は、「新校舎建設計画（基本設計）」（11月）、「全体構想」（平成24年3月）策定に向け、教育委員会事務局と密接に連絡を取りながら校内の検討をさらに進めて参ります。

この間、平成22年6月の同窓会総会では「中高一貫教育導入を支持し、支援していく」旨を決定いただき、さらに平成23年1月には「中高一貫教育導入についての要望書」を県教育長に提出していただくなど、同窓会の皆様には多大なご尽力を賜りました。ここにあらためて感謝申し上げます。

新聞やホームページ等に意見を寄せられた多くの同窓生の皆様の中には、中高一貫教育への転換を危惧する声も一部ございました。

しかしながら、近年では小学生、中学生、高校生が諏訪地区以外の学校に進学する傾向が顕著であり、毎年80～100名の子どもたちが、大学進学を目的に本校以外の高校を選択している現実があります。「学力と人間性」を育むことによって、本校がこれまでこの地域で果たしてきた役割を再確認し、より確かなものとするために、抜本的な改革が必要であると考えます。

中高一貫教育は、多様な教育のあり方の一つの選択肢であり、そのシステムによって実現していこうとする教育の内容こそが重要であると考えます。生徒の学力伸長においても人格形成においても高い成果をあげてきた本校の伝統を、未来に繋げていかなければなりません。

平成24年5月に予定されている県教育委員会主催の地域説明会で、本校の目指す中高一貫校の全体構想が明らかになります。その後本校では、準備状況説明会を随時開催し、直接ご説明しながらご意見・ご要望をお聞きしたいと考えております。また現在、本校HPにおいても常時ご意見を受け付けております。

叡智を集め、「高い学力」「広い視野」「強い意志」を育む諏訪清陵の復権を着実に果たしていかなばなりません。

一層のご理解とご支援をお願いする次第です。

この街と生きていく。

諏訪地域に本店のある地元の金融機関として、地域との共存共栄をめざす諏訪信金の決意です。

諏訪信用金庫

理事長 花岡 桢好（68回）

〒394-8611 岡谷市郷田2丁目1番8号 TEL 0266-23-4567 <http://www.suwashinkin.co.jp>

公益財団法人諏訪圏学校理科教育振興基金について ＝理振の基盤充実に向けて＝

常務理事 石城 祐吉 (62回)

平成23年4月1日をもって「財団法人長野県諏訪清陵高等学校理科教育振興基金」は、「公益財団法人諏訪圏学校理科教育振興基金」(理振)に移行し、新たなスタートをいたしました。

この機会に、理振の歴史を振り返り、公益財団法人移行に至る経緯をご説明し、新たな理振の基盤充実に向けてのご支援をお願いする次第です。

◆理振の歴史

「私は諏訪中学へ入学したいと夢にまで見てきたが、家が貧しくて果たせなかった。しかし、私の夢は子どもたちを諏訪清陵高校へ進学させることで叶えられて感激している。その御礼の意味を含めて500万円を寄付したいので、理科教育の施設の充実に充ててほしい」

理振は、株式会社諏訪精工舎(現セイコーエプソン株式会社)代表であった山崎久夫氏の、この申し出をきっかけに昭和38年に発足し、昭和39年より本校理系クラブへの研究助成・資財助成を始めました。

その成果は毎年「理科研究集録」としてまとめられていますが、貴重な研究を冊子にして世に問う試みもあり、これまでに「ミヤマシロチョウ」(生物部・昭和57年)、「太陽黒点相対数 観測結果報告」(天文気象部・平成13年)の2冊が上梓されています。

また、平成20年度からは、広く諏訪地域の理科教育の発展に寄与すべく、また将来の諏訪清陵高校の担い手を育てるために、諏訪地区の中学校に理科教育に利用する目的の支援金を交付することとしました。

理振は、多くの篤志家の皆さんや地域の団体や企業からの寄付により基金規模の拡大を進め、一時期は利息だけで十分な助成ができるようになりましたが、バブル経済崩壊後の超低金利政策により資産運用も困難となり、近年は思うような助成もできなくなっています(平成22年度基本財産運用収入708,224円)。

より、すべての公益法人が特例民法法人とされ、組織の見直しを迫られることとなり、理振でも法人格検討委員会を設置し検討を開始しました。

当初は公益認定を受けることの困難さなどから、将来的な解散を意味する一般法人化も検討されましたが、諏訪地域全体の発展を考えたとき、科学技術と産業の発展に寄与する人材の育成はますます重要な課題であること、出資いただいた多くの方々の意志によって現在の理振があることなどを再確認するなかで、公益法人として再出発することとなりました。

公益性の確保の観点から、財団の名称より「諏訪清陵」の文字を外し「諏訪圏学校理科教育振興基金」としましたが、清陵高校に対する支援は、スーパーサイエンスハイスクール指定校であること、地域の中核校であることなどから将来にわたって行い、また地域中学に対する支援も継続していくことといたしました。

◆財政基盤強化についてのお願い

こうして新たなスタートを切った理振ですが、現在の基金規模では十分な助成ができず、新たな事業を展開する余地もないという状況は変わっておりません。基金の運用益によって事業を継続していくためには、基金規模の拡大しか解決方法がないというのが現状です。

そこでこの機会に、同窓会員の皆さまに広く呼びかけ、理振発展のためのご協力をお願いしたいと存じます。幸い、公益認定を受けたことにより、税制上の特典があり、寄付をしていただき易くなっております。また、ご寄付いただいた方の志を後世に伝承するため、ご芳名を名盤として残させていただきたいと考えております。

清陵で学ぶ後輩のために、諏訪圏の理科教育振興のために、ぜひご協力をお願いいたします。

詳細につきましては以下の連絡先までお問い合わせ下さい。

◆新制度への移行問題

そんななか、平成20年の公益法人見直し改革3法に

【連絡先】事務局長 小松千章 (62回)

電話 0266-52-3015 携帯 090-1868-2998

医療法人 生々堂矢島医院

産婦人科・内科・皮膚科
休診：日曜、祝日。木・土曜午後。

矢島 織衛 (1回生・故人) 矢島 修 (78回生)

矢島 鑑 (42回生) 矢島 沙織 (105回生)

諏訪市湖岸通り5丁目16番11号

TEL 0266-52-0438

平成22年度 諏訪清陵高校同窓会 会務報告

4. 6 諏訪清陵高校第116回生入学式
新入生242名(内女子97名)松下会長祝辞
○新入生に「校歌」CD・ビデオ「清水ヶ丘にうたう」を贈る。
4. 22 財団法人の新制度への移行に関して打合せ会 14:30
松下財団理事長(会長)他
4. 23 母校への着任教職員歓迎会 18:00(ぬのはん)
松下会長・今井副会長・事務局長
5. 7 『同窓会報』・本会定期総会に関して打合せ会 13:30
(清陵会館) 77回生・事務局長
5. 17 (財)諏訪清陵会会計監査・同窓会会計監査 14:00
(清陵会館) 矢崎斉男監事・河西節郎監事・松下会長・今井副会長・石田清陵会書記・事務局長
5. 23 宮坂なつき(98回)ピアノリサイタル 14:00
(カノラホール)〔同窓会後援〕
5. 28 (財)諏訪清陵会の事業・予算に関して打合せ会 13:30
(清陵会館) 石城教頭・今井副会長・石田清陵会書記・事務局長
5. 29 (財)諏訪清陵会理事会・評議員会 11:30(母校会議室)
○平成21年度事業報告・収支決算の承認。公益法人制度改革に向けて、その他。
同窓会常任幹事会 13:30(清陵会館)
○幹事会提出議案審議。
同窓会幹事会 15:30(清陵会館)
○21年度事業・各種会計決算承認、22年度事業案・予算案承認。役員改選。母校の発展を支援する会(中高一貫校に関して)、その他。
懇親会 17:30(清陵会館)
5. 29 上伊那支部総会 15:30(辰野パークホテル)
上島副会長・石城教頭出席
5. 末 『同窓会報』第36号発送
約16,670通(クロネコヤマトメール便)
6. 7 定期総会に関して打合せ会 13:00(清陵会館)
77回生・事務局長
6. 25 定期総会準備会 18:30
77回生・今井副会長・事務局長(清陵会館・ホテル紅や)
6. 26 平成22年度諏訪清陵高校同窓会定期総会 13:30~
(ホテル紅や)
○平成21年度会務・会計(一般・特別・クラブ後援会)報告。監査報告。22年度事業計画・予算などの承認。三澤文庫整備事業、(財)諏訪清陵会、母校の教育改革に関して。役員改選、その他。〔議長:小林長吉富士見支部長〕
○役員改選 会長に松下勲(59回)再任。副会長の茅野實(52回)・生越万理子(66回)が退任し、新副会長に高見澤忠明(61回)・小口啓子(72回)を選任。副会長の上島武(57回)・今井正喜(58回)・小川勝嗣(59回)は再任。監事の矢崎斉男(51回)が退任、鮎沢茂登(59回)を選任。監事の河西節郎(52回)は再任。
シンポジウム「みんなで語ろう第二校歌」
第一部 第二校歌誕生の背景を探る 長田光正氏(77回)
第二部 第二校歌歌詞解釈 武居美博氏(77回)
懇親会 17:10(ホテル紅や)
〔当番幹事77回生、次期当番幹事78回生、サブ幹事87・97回生〕
7. 15 (財)諏訪清陵会へ監督官庁より監査 13:00(母校)
今井財団常務理事(副会長)・石田書記
7. 17 日本コンボ国交樹立記念コンボフィルハーモニー交響楽団演奏会 14:00(カノラホール)
指揮:柳澤寿男(93回・コンボフィルハーモニー交響楽団首席指揮者)〔同窓会後援〕
9. 22 当番幹事学年引継ぎ会(77回生から78回生へ) 18:30
(仙岳) 松下会長・事務局
10. 2 物故会員ならびに道志社先輩慰霊法要 11:00(地藏寺)
松下会長他
10. 2 臨時常任幹事会 13:00(地藏寺)
○中高一貫校に関して、その他。
10. 15 東京支部(東京清陵会)総会 18:00
(アルカディア市ヶ谷) 松下会長・篠原学校長出席
○小川勝嗣支部長が退任し、藤森宏一氏(63回)就任。
10. 21 母校「湖周マラソン」OB15名参加
慰労懇親会(片倉館) 今井副会長出席
11. 19 諏訪支部総会 18:00(諏訪シティホテル成田屋)
松下会長・篠原学校長・石城教頭出席
11. 29 財団法人に関する説明会(塩尻市)
今井財団理事(副会長)
12. 5 第4回諏訪清陵高校芸術音楽演奏会 14:00
(駅前市民会館)〔諏訪市教育委員会主催・同窓会後援〕
12. 14 県教委による中农信における併設型中高一貫校設置計画案にかかわる地域懇談会 18:30(諏訪市文化センター)
松下会長ほか(同様の会が12月15日に伊那市、12月21日に松本市で開催)
12. 24 中高一貫校に関して打合せ会 15:00(清陵会館)
松下会長ほか4名
1. 8 臨時常任幹事会(清陵会館)
○中高一貫校に関して県教委への要望書の件。(財)諏訪清陵会に関わる件、その他。
1. 11 県教委へ中高一貫校へ向けて同窓会として要望書を提出
松下会長・今井副会長・高見澤副会長
1. 14 (財)諏訪清陵会の今後に関して打合せ会(清陵会館)
今井財団理事(副会長)・石城財団事務局長(教頭)・石田書記・事務局長
1. 29 23年度定期総会・『同窓会報』に関する打合せ会 18:00
(清陵会館) 78回生・79回生
2. 5 茅野支部総会 15:30(マリオローヤル会館)
松下会長・篠原学校長出席
2. 14 (財)諏訪清陵会・同窓会に関して打合せ会 14:00
(清陵会館) 松下財団理事長(会長)・石城財団事務局長(教頭)ほか3名
2. 18 北信支部総会 18:00(ホテル国際21)
松下会長・石城教頭出席
2. 19 (財)諏訪清陵会理事会・評議員会 11:30(母校会議室)
○平成23年度事業計画案・収支予算案の件。役員改選。寄付行為(定款)の件。公益法人制度改革に向けて、その他。
2. 19 同窓会常任幹事会 13:30(清陵会館)
○幹事会への提出議案審議
同窓会幹事会 15:30(清陵会館)
○中高一貫校に関する件。創立120周年に関わる件。平成23年度定期総会・『同窓会報』に関して。(財)諏訪清陵会に関して、その他。
懇親会 17:30(清陵会館)
2. 20 富士見支部総会(大奥)
松下会長・篠原学校長出席
○小林長吉支部長(61回)が退任し、小林光(60回)就任。
2. 25 岡谷支部総会 18:30(ホテル岡谷)
松下会長・篠原学校長出席
2. 27 関西支部総会 11:00(大阪第一ホテル)
松下会長・篠原学校長出席
3. 5 母校第114回生卒業式
卒業生239名(内女子101名)松下会長祝辞
○同窓会から会長のメッセージを添えて卒業記念品として印鑑セットを贈呈。
3. 7 下諏訪支部総会 18:00(ぎん月)
松下会長・篠原学校長出席
3. 12 東海支部総会 11:00(名古屋キャッスルプラザ)
松下会長・篠原学校長出席
3. 23 母校転退職職員送別会 18:00(浜の湯)
松下会長・今井副会長・事務局長出席
○同窓会より饗原秀郷学校長・山崎典英事務局長ほか12名。
3. 27 松本支部総会 16:00(松本東急イン)
松下会長・石城教頭出席
他、「三澤先生記念文庫」の整備作業を年間を通じて随時実施

平成 22 年度 同窓会一般会計決算報告

収入総額9,557,818 円

支出総額9,534,297 円

差引残高23,521 円 (平成 23 年度へ繰越)

収入の部

(単位: 円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
前年度繰越金	395,176	395,176	0	
入 会 金	1,205,000	1,210,000	5,000	5,000 円× 242 名
終 身 会 費	4,820,000	4,840,000	20,000	20,000 円× 242 名
基本財産収入	150,000	97,482	- 52,518	
繰 入 金	3,300,000	3,000,000	- 300,000	基金 (定期) より
雑 収 入	50,000	15,160	- 34,840	利息,CD・100 年史・名簿等売上金, 他
合 計	9,920,176	9,557,818	- 362,358	

支出の部

(単位: 円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
会 議 費	200,000	225,209	25,209	役員会,慰霊法要等
総 会 費	350,000	328,567	- 21,433	運営費,資料作成費, 広告代, 他
旅 費	550,000	524,970	- 25,030	役員会,役員出張旅 費等
人 件 費	480,000	480,000	0	給与 (事務局長)
需 要 費	100,000	75,592	- 24,408	新聞代,事務用品等
役 務 費	280,000	284,164	4,164	電話料, 郵送料,LCV - NET 利用料, 他
慶 弔 費	850,000	861,440	11,440	支部総会祝儀, 餞別, 弔電, 広告代, 他
記 念 品 費	180,000	167,300	- 12,700	卒業生への記念品代
繰 出 金	4,450,000	4,450,000	0	会報(190 万円), 清陵会(200 万円), 会館維持 (5 万円)
基金繰出金	0	0	0	
備 品 費	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	2,480,176	2,137,055	- 343,121	自反会, SSH, コソボ演奏会, 他
合 計	9,920,176	9,534,297	- 385,879	

平成 23 年度 同窓会一般会計予算書 (案)

収入総額8,478,521 円

支出総額8,478,521 円

差引残高0 円

収入の部

(単位: 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減額	備 考
前年度繰越金	23,521	395,176	- 371,655	
入 会 金	1,205,000	1,205,000	0	5,000 円× 241 名
終 身 会 費	4,820,000	4,820,000	0	20,000 円× 241 名
基本財産収入	100,000	150,000	- 50,000	
繰 入 金	2,300,000	3,300,000	- 1,000,000	基金 (定期) より
雑 収 入	30,000	50,000	- 20,000	利息,CD・100 年史 売上金, 他
合 計	8,478,521	9,920,176	- 1,441,655	

支出の部

(単位: 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減額	備 考
会 議 費	200,000	200,000	0	役員会,慰霊法要等
総 会 費	350,000	350,000	0	運営費,資料印刷費, 広告代, 他
旅 費	550,000	550,000	0	役員会,役員出張旅 費等
人 件 費	480,000	480,000	0	給与 (事務局長)
需 要 費	100,000	100,000	0	新聞代,事務用品等
役 務 費	280,000	280,000	0	電話料, 郵送料 LCV - NET 接続・利用料, 他
慶 弔 費	850,000	850,000	0	支部総会祝儀, 餞別, 弔電, 広告代, 他
記 念 品 費	170,000	180,000	- 10,000	卒業生への記念品代
繰 出 金	2,250,000	4,450,000	- 2,200,000	会報(170 万円), 清陵会(50 万円), 会館維持 (5 万円)
基金繰出金	0	0	0	
備 品 費	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	3,248,521	2,480,176	768,345	自反会, SSH, 三澤文 庫, 他
合 計	8,478,521	9,920,176	1,441,655	

諏訪清陵同窓会「基本財産」目録

基本財 51,000,000 円

(内訳) 定期預金 諏訪信用金庫 41,000,000 円

八十二銀行 10,000,000 円

平成 22 年度「清陵会館」維持会計決算報告

(平成 22 年 4 月 1 日から 23 年 3 月 31 日)

収入額1,067,846 円 (繰越金、繰入金、利息)

支出額0 円

差引残額1,067,846 円 (平成 23 年度へ繰越)

諏訪清陵高校 OB・OG

「諏訪湖一周マラソン」のご案内

本年も恒例の諏訪湖マラソン OB・OG 大会を下記により、母校の伝統行事に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの参加と応援を期待しご案内とします。

1. 日 時 10 月 20 日 (木) 女子 8 時 40 分、男子 9 時スタート
2. コース スタート・ゴール 湖畔石影公園 約 19.4km
3. 受 付 湖畔石影公園のスタート地点 午前 8 時よりゼッケン受 取後スタート地点へ。終了後懇親会 (片倉館)。
4. 参加費 マラソンのみ 2,000 円 懇親会まで 3,000 円
5. その他 健康診断もお忘れなく。雨天の場合は受付時に判断。

清陵湖周マラソン OB 会

会 長 牛山 孝 (59 回) 会 計 唐沢千明 (76 回)

問合先 原 英充 (65 回) 電話 0266-58-3547

平成 22 年度「同窓会報」特別会計決算報告

(平成 22 年 4 月 1 日から 23 年 3 月 31 日)

収入額2,655,528 円

(繰越金、一般会計より繰入金、広告収入等)

支出額2,184,855 円

(会報 36 号編集・印刷費、発送料等)

差引残額470,673 円

(平成 23 年へ繰越)

三浦洋子行政書士事務所

行政書士 三 浦 洋 子 (78 回生)

- ◆入国在留手続◆渉外戸籍整序◆国際法務◆帰化
- ◆相続◆建設業・風俗営業・産業廃棄物処理業許可

〒399-0032 松本市大字芳川村井町 220-343

TEL : 0263-86-8082 / FAX : 0263-86-8060

平成22年度 定期総会の記

平成22年6月26日、ホテル紅やにて定期総会が開催されました。物故会員への黙祷をささげた後、松下同窓会長の挨拶で始まりました。このご挨拶のなかで、諏訪清陵高校が中高一貫教育を推進することを同窓会として支援する旨の表明がありました。後段の議案のなかでも母校の教育改革についての説明があり、会場からも、母校の改編に期待する篤い思いがこもった拍手が沸きあがりました。定例の、会務・会計報告が行われ、クラブ活動に対する同窓会後援会の会計報告と続き、22年度の事業計画・予算案が説明され承認されました。

また、報告事項として財団法人諏訪清陵会について、政府指針の変更により今後は一般法人への移行を行わざるを得ず、運営方法の変更・調整など多くの懸案事項があるとの概略説明がありました。さらに、下諏訪出身の指揮者・柳澤寿男氏が率いるコソポフィル演奏会の紹介もありました。予定した議事は滞りなく進行・承認され、第一部が終了しました。

第二部のシンポジウムでは「みんなで語ろう第二校歌」と題して、初めに77回生長田光正君が明治36年に中島喜久平氏(4回)作詞の第二校歌が誕生した背景について、諏訪中創立期のエピソードを交え約40分熱弁を振るい、その後を受け、77回生であり母校で国語の教鞭をとる武居美博君が、歌詞の意味やなかにこめられた意



第二校歌の解説をする武居美博君

味について幾つもの解釈を加え説明しました。何しろ10番まである難解な歌詞ですので、1時間という持ち時間ではとても足りなかったようですし、理解するに至る状態ではありませんでしたが、母校校歌の奥深さを改めて知ることとなりました。

この定期総会では、当初から現役清陵生学友会三役諸君を招待し、先輩諸氏の活動に触れてもらう機会を設けました。私たち77回生の活動テーマは、「清陵の今を知り、我々が何を為すべきか」を現場を通じて感じるところにありました。会報の特集もそこに焦点を当て、多くの現役生にインタビューするところから始めました。

現役清陵生は私たちと比してとてつもなく純真であります。同窓会はまちがいなく人材の宝庫であり、同窓会が現役と人事交流することにより、高校教育カリキュラムを邪魔することなく、人間練成の端緒として、「私たち同窓会は現役諸君と心の触れ合う接点を模索すべき時節を迎えている」と考えたからです。招待をした諸君の心の内に何が残ったのでしょうか？ 諸先輩の前で挨拶に立った学友会三役諸君の堂々たる態度には、脈々と受け継がれている清陵魂を感じました。今後の交流活動への発端となれば幸いです。

第三部の懇親会は、現役生の合唱クラブによるアカペラ合唱にて静かで落ち着いた幕開けをしました。今回は事前にチケットの販売を行なわなかったのですが、出席予定人数の把握が難しかったのですが、200名を越す先輩・同輩・後輩の皆さまがご参集くださり、安堵しました。最後は78回生の音頭で校歌を斉唱し盛会のうちに終了しました。

不二屋代表取締役 新村 良雄(四九回)
新 村 隆(八五回)
下諏訪町四ツ角
TEL(〇二六六) 二七七八五〇五
FAX(〇二六六) 二八七七〇九五

諏訪名産
初霜

栄光ゼミナール みらい塾

諏訪市諏訪 1-6-1 スワプラザ 2・3F

TEL 0266-53-6606/0266-58-0086

芳澤 範朗 (78回生)
芳澤真由美 (108回生)

芳澤 香織 (107回生)
芳澤 希 (111回生)

清陵高校クラブ後援会 (3 者) 会計報告 (PTA・同窓会・学友会)

平成9年度にPTA・同窓会・学友会により結成された「清陵高校クラブ後援会」も発足以来14年を経過いたしました。同窓会からは会員各位のご理解を得るなか、この14年間に3,678万円の援助をいただいております。

平成22年度は、延べ143の大会に約2,100名の生徒が「清陵」の名を背負って参加し、頑張っております。

中でも端艇部、イングリッシュ部、古典ギター部およびかるた部が全国大会に出場するなど、栄誉ある成績をおさめることができました。

その他各種大会に参加するための生徒遠征費や校外の施設を使用することによる施設使用料に対する補助も実施いたしました。

なお、すでに各クラブ・同好会とも前年以上の成績を目指して部活動に入っており、引き続き絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(学校事務長・小口 稔)

平成22年度 クラブ後援会 (3 者) 会計決算

収入総額	11,484,742 円
支出総額	10,256,863 円
差引残高	1,227,879 円

収入の部

科 目	予算額	収入済額	比較増減
繰 入 金	9,390,000	9,300,000	0
県 費 等 補 助 金	460,000	1,944,956	1,484,956
雑 収 入	475	261	- 214
繰 越 金	239,525	239,525	0
合 計	10,000,000	11,484,742	1,484,742

支出の部

科 目	予算額	支出済額	比較増減
生 徒 遠 征 費	7,130,000	7,443,080	313,080
大 会 参 加 費	1,400,000	1,405,120	5,120
登 録 料	750,000	806,200	56,200
施 設 使 用 料	650,000	600,108	- 49,892
事 務 費	20,000	2,355	- 17,645
予 備 費	50,000	0	- 50,000
積 立 金	0	0	0
合 計	10,000,000	10,256,863	256,863

清陵高校クラブ活動同窓会後援会への入会のお願い

平成9年度の定期総会において「母校の全てのクラブ・同好会に関して、母校を代表して各種大会等へ出場する場合の生徒遠征費等を支援すること」を目的に標記の後援会が発足致しました(詳細は平成9年度発行の『会報』第23号参照)。

平成9年度からの5年間(第1次)に1,730名から協力(入会)を頂き、また、引き続き平成14年度からの5年間(第2次)でも1,701名の協力を頂いております。この結果、平成18年までの10年間で2,496万円を母校へ贈ることができました。継続して平成19年度から第3次・5年間に入っており、平成22年度までの4年間では、1,182万円を母校へ贈っております。ご協力ありがとうございました。

毎年この『会報』発送の折に会費(5年分・10,000円)のご協力を頂きたく「振込取扱票(郵便振替用紙)」を同封しておりますが、残念ながら最近では入会者が減少の傾向にあります。因みに、19年度は356名、20年度は252名、21年度は246名、22年度は198名で、平成9年の発足以来初めて200名を下回りました。単年度では、母校へ贈る金額が不足する状況となりました。学友会・PTA・同窓会の3者からなる清陵高校クラブ後援会継続のためにも、是非ともご協力を切にお願い致します。

ご送金方法

- ◇同封の郵便振替用紙でお願いします。(手数料無料)
- ◇ご都合で5年分一括でない場合は金額を訂正してお振り込みください。(1年分でも結構です)
- ◇銀行振込の場合は下記口座へお願い致します。手数料はご負担頂ければ幸いです。

口座名 清陵クラブ活動同窓会後援会

八十二銀行諏訪支店 普通 689 - 629

諏訪信用金庫上諏訪支店 普通 1049944

銀行振込の場合は差出人の振り仮名欄に必ず回生をご記入ください。(例 77 カイ セイリョウ タロウ)

平成22年度

諏訪清陵高校クラブ活動

同窓会後援会会計決算報告

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入総額	5,810,566 円
支出総額	3,104,705 円
差引残高	2,705,861 円

収入の部 (単位: 円)

科 目	収入済額	備考	科 目	支出済額	備考
繰 越 金	3,849,184	前年度より	拠 出 金	3,050,000	学校後援会へ
会 費	1,958,280	198名	需 用 費	54,705	振替用紙印刷代
繰 入 金	0	定期預金取崩し			
雑 収 入	3,102	預金利息			
合 計	5,810,566		合 計	3,104,705	

支出の部 (単位: 円)

諏訪清陵高校クラブ活動

同窓会後援会基金

(平成23年4月4日現在・単位: 円)

種 類	預入先	金 額	利率	期間	満期日
普通定期(単利)	諏訪信用金庫	3,000,000	0.030%	1 年	H24.4.4
〃	〃	1,400,000	〃	〃	〃
合 計		4,400,000			

クラブ後援会会員芳名 (敬称略) 平成19年より現在

以下の名簿は平成23年4月1日現在、クラブ後援会会費5年分をお振り込みくださっている方々です。したがって平成18年度中に振り込まれた方は、平成22年3月31日をもって5年間の任期が終了いたしましたので、この名簿にお名前は記載されておりません。ぜひ新たに入会（お振り込み）をお願いいたします。

31 林 六美	42 小口 國夫	46 関 忠雄	49 小池 久敏	51 今井 好昭	56 小坂 弘	58 今井 敏夫	59 宮坂 眞嗣
31 宮坂 水穂	42 小口 千晴	46 武井 厚隆	49 小松 久敏	51 今井 信男	56 河西 啓二	58 内山 善一	59 宮坂 仁
32 伊藤 文夫	42 小口 貞健	46 武井 敏男	49 小松 文夫	51 太田 金松	56 神山 幸雄	58 江黒 泰生	59 宮坂 豊国
33 伊藤 文夫	42 小口 正雄	46 長谷部 一男	49 齊藤 文夫	51 小松 隆一	56 小池 幸雄	58 小野 寿男	59 山崎 雄二
35 大宮 清	42 小口 真一	46 古屋 喜美夫	49 代田 繁夫	51 金子 隆一	56 小泉 幸雄	58 笠原 上條	59 山田 和彦
35 洞澤 達美	42 小口 廣好	46 増澤 義三	49 鈴木 邦彦	51 小池 春次	56 小松 茂	58 木下 博介	59 山口 博人
35 増沢 一男	42 小口 平臣	46 矢島 昭	49 高橋 健	51 小松 悦郎	56 小宮 啓一朗	58 小松 公夫	60 一ノ瀬 五十志
35 矢崎 秀彦	42 小口 正	46 有賀 公雄	49 土田 健次郎	51 進藤 八郎	56 酒井 利男	58 小松 秀文	60 菊池 功
35 山田 清	42 小口 芳	46 伊東 敬一郎	49 土橋 達也	51 内藤 昌	56 三溝 善一	58 小松 常規	60 今井 将隆
36 石埜 正一郎	42 小口 正	46 井上 哲男	49 林 厚彦	51 藤 将雄	56 武居 浩明	58 小松 英雄	60 河西 千広
36 熊谷 久志	42 小口 保	46 今井 健彦	49 林 忠男	51 藤 定義	56 永坂 真之	58 小松 秀文	60 河西 善実
36 中村 清寿	42 小口 藤雄	46 荻野 昭	49 平出 陽男	51 藤 昭八	56 保科 正明	58 小松 昭	60 笠原 文武
36 古舘 良平	42 小口 正	46 久保 龍太郎	49 福島 太郎	51 堀内 昭八	56 細田 悦雄	58 小松 英夫	60 笠原 浩
36 武崎 良定	42 小口 正	46 倉島 武男	49 増澤 悦男	51 三村 俊二	56 堀田 俊夫	58 五味 公夫	60 金井 剛一
37 清水 泰三	43 小口 昌平	46 小林 正樹	49 宮坂 敏彦	51 宮坂 祐次	56 堀川 尚武	58 高橋 勇夫	60 加室 昂
37 武井 修司	43 小口 昇	46 竹村 健一	49 宮坂 久臣	51 矢崎 齊男	56 宮澤 弘	58 高橋 裕子	60 菊池 敏一
37 蛭川 康夫	43 小口 昇	46 中村 三吾	49 山岡 利行	51 鮎沢 啓次郎	56 宮下 敬三	58 茅野 充男	60 小口 徳次
37 矢島 善一	43 小口 昇	46 花岡 典人	49 山岡 利之助	52 今井 文	56 望月 哲	58 長澤 正衛	60 小口 明
37 大澤 一雄	43 小口 昇	46 演 哲郎	49 高田 早苗	52 今井 文	56 守矢 哲	58 中澤 正衛	60 後藤 智昭
38 北原 文雄	43 小口 昇	46 平出 康彦	49 山田 佳也	52 牛山 房弘	56 石森 美代子	58 鈴木 由美子	60 小林 光
38 小口 克己	43 小口 昇	46 松川 昭久	49 赤羽 省吾	52 大和 節雄	56 大橋 博康	58 名取 次夫	60 小松 寛之
38 藤森 孝雄	43 小口 昇	46 伊藤 昭久	49 天野 力夫	52 小口 明	56 渡部 清	58 林 善八郎	60 五味 章次
38 矢ヶ崎 孝雄	43 小口 昇	46 宮坂 和宏	49 伊藤 昌久	52 小野 泰策	56 池田 恩恵	58 齋藤 寛	60 近藤 信也
39 井上 吉	44 小口 勝	46 宮坂 順一	49 岩波 貞夫	52 笠原 邦三	57 岡田 茂	58 齋藤 良一	60 徳岡 拓雄
39 永井 俊夫	44 小口 孝之	46 伊藤 芳明	49 牛山 幸三	52 小松 寛光	57 荻野 浩	58 原田 真弓	60 篠原 健
39 栗林 松治	44 小口 敏	46 小口 幸宜	49 片岡 一郎	52 篠原 剛	57 小口 智弘	58 古畑 喜博	60 岡 滋
39 小清水 政重	44 小口 幸	46 高木 章	49 小池 重雄	52 清水 忠義	57 片倉 新平	58 眞下 廣	60 結田 英哉
39 清水 康弘	44 小口 幸	46 田中 薫	49 小泉 作一	52 関 裕安	57 小池 定雄	58 御園 廣	60 田口 稔
39 茅野 和雄	44 小口 幸	46 田中 眞	49 後藤 英佑	52 田上 明	57 小林 晋作	58 宮坂 栄治	60 田中 拓二
39 平林 治吉	44 小口 幸	46 藤森 茂	49 小島 宏	52 田中 正利	57 小林 浩	58 矢嶋 聡	60 長田 敦夫
39 藤森 久雄	44 小口 幸	46 丸山 数馬	49 永由 弘	52 茅野 實	57 小林 宏	58 矢島 秀一	60 野沢 勲
39 細田 圭一	44 小口 幸	46 宮坂 武夫	49 林 五平	52 千葉 春男	57 小林 正春	58 山口 宗彦	60 野竹 虎夫
39 宮坂 英夫	44 小口 幸	46 宮坂 孝平	49 平出 司朗	52 土橋 光廣	57 五味 瑞治	58 吉田 満	60 長谷川 修平
39 吉澤 千明	44 小口 幸	46 今井 浩一	49 藤森 留一	52 友野 弘	57 薩摩 林真美	59 赤羽 義章	60 浜 勝彦
40 伊藤 豊次	44 小口 幸	46 松岡 文郎	49 宮坂 勝郎	52 名取 雄祐	57 篠原 康夫	59 朝倉 周一	60 原田 俊次郎
40 小口 多聞	44 小口 幸	46 久保 光章	49 平島 昭	52 波多 秀夫	57 清水 澄	59 飯田 力也	60 平澤 澄雄
40 加々見 一郎	44 小口 幸	46 原 義郎	49 両角 光一	52 浜 一栄	57 高橋 長幹	59 上原 寿雄	60 藤森 和弘
40 小口 久男	44 小口 幸	46 柴田 武男	49 矢崎 文彦	52 林 尚孝	57 武井 榮一	59 小川 勝嗣	60 二本 隆
40 花岡 三郎	44 小口 幸	46 増澤 文夫	49 山岡 正邦	52 藤森 昇	57 茅野 嘉利	59 小澤 廣利	60 堀 見
40 平沢 茂満	44 小口 幸	46 宮坂 文雄	49 山崎 正彦	52 降幡 泰夫	57 土橋 健夫	59 小沢 靖弘	60 松澤 功
40 宮坂 有勝	44 小口 幸	46 飯島 茂生	49 山村 泰彦	52 三枝 健男	57 中澤 富夫	59 加賀 美久高	60 丸茂 敬昌
40 宮坂 伊兵	44 小口 幸	46 今野 広久	49 渡辺 誠	52 両角 庄二郎	57 佐野 日出雄	59 小松 邦弘	60 丸山 純夫
40 百瀬 茂夫	44 小口 幸	46 齊木 善弘	49 伊藤 清治	52 小林 誠三	57 西山 郁夫	59 小松 巖	60 宮坂 茂作
40 矢沢 邦市	44 小口 幸	46 小口 久	49 牛山 淳一郎	52 太田 弘道	57 浜 有	59 小松 守	60 宮坂 博己
40 林 卓郎	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 帯川 淳志	52 米沢 時雄	57 濱 安幸	59 古村 憲資	60 小平 利昌
41 小口 俊弘	44 小口 幸	46 矢崎 英一	49 宮坂 芳久	52 三枝 健男	57 樋口 祐三	59 白倉 徹哉	60 宮澤 政文
41 小口 正信	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 牛山 精一	52 両角 庄二郎	57 藤田 吉藏	59 城取 俊昭	60 矢崎 清太郎
41 小池 正衛	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 帯川 淳志	52 小林 誠三	57 松澤 光昭	59 千野 光久	60 柳沢 忠志
41 小松 益美	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 笠原 俊彦	52 太田 弘道	57 溝口 藤雄	59 中島 伸一	60 深見 靖正
41 武田 博夫	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 片瀬 豊	52 小松 清一	57 和田 昭通	59 舩沢 茂登	60 弓削 裕和
41 中村 守利	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 木見 尻康彦	52 小松 和幸	57 渡邊 道隆	59 舩沢 茂登	60 横内 仁
41 浜 玄三男	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 久保田 貢	52 小松 和幸	57 赤羽 正臣	59 津金 勝巳	61 赤沼 洋
41 林 慧	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 久保田 貢	52 小松 和幸	57 有賀 四郎	59 藤原 康二	61 伊東 章里
41 百瀬 貞夫	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 久保田 貢	52 小松 和幸	57 飯田 邦年	59 藤原 忠治	61 伊藤 章里
41 藤森 英	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 久保田 貢	52 小松 和幸	57 飯田 節吉	59 長瀬 价美	61 上田 進
41 藤森 武康	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 久保田 貢	52 小松 和幸	57 石城 浩吉	59 細野 祐	61 牛山 俊
42 飯田 幹徳	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 久保田 貢	52 小松 和幸	57 伊藤 隆一	59 松下 勲	61 太田 龍朗
42 岩波 松美	44 小口 幸	46 伊藤 清治	49 久保田 貢	52 小松 和幸	57 伊藤 隆一	59 丸山 茂夫	61 小口 智也

三浦ガラス電気

三浦 千弘 (78 回生)

諏訪市四賀武津 36-1

〒392-0012 TEL: 0266-58-7502

FAX: 0266-58-7617

医療法人 順恵会 伊藤外科医院

院長 伊藤隆一 (第58回生)

長野県上伊那郡辰野町大字伊那富7483
TEL 0266-41-3388

61 小澤 興	64 小泉 健二	67 早苗 苗	71 花岡 佳市	76 直彦 直彦	82 那須野秀二	90 古畑 透	106 笠原 鏡平
61 小松 晃	64 五味 清	67 矢崎 哲也	71 金子 芳治	76 小笠原 尚一	82 古屋 了	90 宮坂実子	106 小松 高宙
61 薩摩林 知明	64 杉浦 信剛	67 矢萩 山本	71 三澤 敏郎	76 小池 明朗	82 藤森 真佐子	90 宮瀬 達雄	106 清水 奈緒
61 篠崎 晴彦	64 高山 直人	67 山本 尚人	71 宮坂 英敏	76 小池 幸一	82 増澤 宏昭	90 矢澤 勲	106 中村 英理子
61 鵜柄 光則	64 武井 濱	67 大森 智明	71 宮坂 文夫	76 坂田 幹夫	82 村松 健二	91 伊藤 大助	106 渡邊 希
61 瀬戸 明彦	64 堀内 龍也	67 小口 昌明	71 新井 文志	76 野口 博茂	82 武井 健二	91 上原 綾子	107 小口 真太郎
61 高橋 勉	64 丸茂 峰宏	67 春平 史義	71 飯澤 昌弘	76 花岡 信明	82 新澤 どり	91 北沢 清二	107 武居 美緒
61 土橋 隆一	64 宮澤 玄治	67 小林 貢	71 植松 昇	76 花岡 昌幸	83 岩本 和久	91 五郎 九井	107 茅野 直子
61 久保田 宏	64 山崎 智仁	67 茅野 哲一	71 岡村 邦雄	76 細川 昌臣	83 菊池 俊樹	91 藤森 完一	107 溝口 真
61 中村 隆一	64 山崎 勝義	67 花岡 正敏	71 小口 健雄	76 松田 修	83 五味 昭彦	91 今井 修	107 宮坂 勝彦
61 野澤彰治郎	64 山田 紹司	67 藤森 富雄	71 河西 初雄	76 渡辺 泰和	83 茶城 陽一	92 小竹 直子	107 高澤 梓
61 平野 賢一	64 山田 昌純	67 古河 仁	71 笠原 勇二	76 阿部 泰男	83 伏見 升成	92 上條 清彦	108 吉澤 昂
61 藤森 清文	64 渡辺 紹司	67 矢崎 和広	71 鎌倉 秀和	77 小澤 周介	83 藤森 修一	92 菅沼 隆	108 島田 実幸
61 降旗 清三郎	65 池田 昌子	67 飯塚 敏彦	71 熊倉 元孝	77 小林 祥一	83 藤森 修一	93 五味 聖	108 津金 ひろ
61 堀川喜代三郎	65 山崎 享子	67 伊藤 昌博	71 桑沢 文男	77 小松 正彦	83 矢嶋 哲三	93 新村 ゆかり	108 早川 露子
61 宮沢 健	65 伊藤 連一	67 上田 典風	71 永田 修平	77 藤森 茂樹	83 山崎 幸彦	94 小口 誠司	109 岩波 薫
61 三輪 昭裕	65 岩本 弘	67 笠原 信明	71 根橋 清	77 金子 恵子	84 山崎 幸彦	94 金井 賢也	109 小松 良大
61 高見澤忠明	65 笠原 洋勇	67 小口 哲男	71 野口 俊樹	77 樋口 宏	84 長尾 洋一	94 藤森 賢也	109 佐藤 奈奈
61 横川 紀夫	65 春日 芳夫	67 酒井 幸雄	71 保科 吉郎	77 堀田 康之	84 立木 繁	94 北条 浩之	109 土橋 悟
61 横山賢太郎	65 木村 博	67 篠崎 富男	71 浅川 辰司	77 宮坂 直孝	84 田中 麻恵	95 小松 貴弘	109 原田 希子
61 英一	65 小林 俊徳	67 比田井 昌英	71 遠藤 進	77 矢崎 秀一	84 藤森 弘	95 斎藤 泰史	110 青木 勇太
61 今井 保寿	65 五味 正明	67 津金 正典	71 北川 和彦	77 渡辺 恵祐	84 細川 洋一	95 高山 美一郎	110 伊藤 誠悟
61 金子 浩之	65 田中 昇	67 中村 正治	71 熊谷 靖樹	77 釜洞 修一	84 宮坂 明史	95 山本 瑞己	110 小松 昌平
61 小松 道俊	65 田中 健雄	67 花岡 清二	71 小島 正和	77 南保 勝美	84 矢島 隆治	95 五味 弘行	110 倉田 雅志
61 清水 和親	65 名取 武一	67 浜 雄一	71 濱 重男	77 宮瀬 佳章	84 八幡 純治	96 下島 和弥	110 小松 優規
61 竹内 洋平	65 野口 一吉	67 比田井 和雄	71 平塚 唯史	77 今井 博一	85 吉田 孝信	96 中村 恭史	110 清水 啓一
61 田中 明雄	65 原 英光	67 比田井 英雄	71 増田 利定	77 岩波 金太郎	85 藤澤 直也	96 浜 真由美	110 田中 文乃
61 長田 宏子	65 細田 正昭	67 三井 清嗣	71 岩波 豊明	77 岩波 高弘	85 藤澤 和利	96 平林 一也	110 花園 辰行
61 中村 俊明	65 溝口 忠昭	67 宮坂 本男	71 岩本 敏男	77 小口 裕行	85 吉江 一彦	96 小濱 知美	110 藤森 章浩
61 浜 武秀	65 上原 精一	67 矢島 正昭	71 小口 哲男	77 川辺 昌弘	86 今井 重雄	97 今井 英生	110 矢島 健思
61 濱 靖高	65 笠原 健三	67 山崎 卓	71 金井 嘉泰	77 小池 隆	86 牛山 英俊	97 小穴 昌志	111 今井 実華
61 平林 哲夫	65 笠原 克彦	67 吉江 春人	71 北原 嘉泰	77 小池 隆	86 青木 裕子	97 宮下 秀文	111 小松 知世
61 藤森 都男	65 小澤 正八	67 吉江 森男	71 久保田 俊正	77 五味 稔典	86 武田 正利	97 永田 美里	111 小松 裕子
61 宮坂 通	65 高山 勝裕	67 小口 幸一	71 小池 秀力	77 高橋 則広	86 辻 清隆	97 新村 好	111 横内 健悟
61 岡角 晃一	65 岩波 昭輝	70 桑沢 隆文	71 小池 克成	77 新村 融一	86 中島 剛	98 上野 朋彦	111 市村 知美
61 矢島 龍夫	65 中村 俊夫	70 小池 金好	71 杉山 公宏	77 原 薫	86 高橋 みゆき	98 山本 睦	112 佐々木 統一
61 吉田 貢	65 樋口 宗司	70 五味 知佳士	71 土橋 英一	77 松沢 公夫	86 井出 健次	98 五味 泰史	112 竹松 俊彦
61 荒木 信行	65 藤森 英和	70 齊藤 憲一	71 中山 夏樹	77 山田 寛	87 土橋 智也	100 根本 和彦	112 藤森 夏彦
61 今井 洋一	65 藤森 元規	70 佐久 信雄	71 松縄 茂	77 織田 吉夫	87 宮坂 玲子	100 林 敬祐	112 山岡 日和
61 岩間 建重	65 堀川 安洋	70 渋谷 康海	71 三井 常夫	77 金井 真一郎	87 矢崎 裕夫	101 新井 伸一郎	112 山岡 文也
61 遠藤 博万	65 松田 洋	70 清水 英俊	71 柳沢 秀生	77 滝沢 享	88 伊東 みゆき	101 吉江 夏子	112 渡邊 直登
61 尾澤 隆久	65 丸茂 雅弘	70 岩波 政臣	71 伊藤 弘志	77 武居 光雄	88 小川 幸司	101 笠原 茂佳	113 雨宮 崇仁
61 小澤 容	65 岩波 秀成	70 馬淵 太郎	75 伊藤 嘉文	77 土橋 正明	88 倉科 和則	102 中根 伸昌	113 笠原 萌花
61 金井 英雄	65 宮澤 正幸	70 三村 博一	75 牛山 重幸	77 原田 信	88 桑沢 和伸	102 松木 友彦	113 金子 智裕
61 鎌倉 信也	66 飯沢 信次	70 藤森 行雄	75 武居 厚郎	77 藤森 民雄	88 茅野 みゆき	103 折井 海	113 小林 九重
61 河合 信也	66 今井 豊	70 矢島 芳明	75 土橋 和彦	77 松田 正之	88 中村 俊信	103 山田 信彦	113 小松 史奈
61 高木 鐵也	66 大久保 伸	71 山田 厚	75 徳高 昇一	77 宮坂 哲雄	88 増澤 浩一	103 山田 秋彦	
61 永田 英敬	66 齊藤 日出治	71 伊藤 秀人	75 浜 興治	77 百瀬 雅志	89 今井 淳	103 吉江 大峰	
61 中村 好邦	66 石原 美江子	71 奥山 裕	75 平出 俊二	77 両角 留美	89 岩原 賢一郎	104 有賀 裕美	
61 名執 泰夫	66 笹岡 敦子	71 河西 精治	75 藤森 武	81 山本 知明	89 宮坂 まゆみ	105 小口 佳納子	
61 藤森 宏一	66 中島 永人	71 小林 秀樹	75 細田 直史	81 田村 聡	89 角 康典	105 倉田 修治	
61 牧 成治	66 根橋 房司	71 小松 公一	75 宮坂 通彦	81 清水 聡	90 新井 直子	105 武居 悠輔	
61 松木 義文	66 根橋 善文	71 磯野 康子	76 朝倉 義信	81 諏訪 明雄	90 池上 健一	105 茅野 大祐	
61 丸山 佳広	66 丸茂 義典	71 五味 常春	76 鮎澤 雅子	81 田中 則雄	90 小濱 健一	105 土橋 貴帆	
61 蜜澤 裕二	66 三浦 敏彦	71 江口 利明	76 須田 久司	82 伊藤 正三	90 西瀬 孝章	105 中村 春子	
61 互理美代子	67 峯村 道臣	71 萩原 啓一	76 稲葉 利恵子	82 河西 正三		106 井原 和美	
61 山田 善彦							
61 吉田 紘							
61 米山 勉男							
61 鮎沢 宏威							
61 北原 良樹							
61 武井 省吾							
61 海野光三郎							
61 小口 寿夫							
61 小澤 俊							
61 木川 史弘							

各種自動車 販売・リース・整備・钣金塗装・パーツ販売

(株) マルエー・アダチ

茅野市ちの 2557-3 TEL 72-2217・FAX 72-0470

中古車展示販売

セイシンオート

諏訪市四賀武津 79-1 TEL 56-3388

各種保険

(株) セーフティ・プラン

諏訪市四賀武津 85 TEL 56-3520

代表取締役 足立孝幸(78回生) / 常務取締役 小林生典(78回生)

地区支部だより

	関西支部	東海支部	東京支部 (東京清陵会)	上伊那支部	北信支部
支部役員	支部長/上島武 (57 回) 副支部長/今井文人 (52 回)、 小林悟郎 (56 回)、今井稔子 (58 回)、 山田正幸 (59 回) 監事/松木本興 (61 回) 相談役/河西計介 (42 回) 事務局長/吉澤啓介 (57 回) 事務局員/神戸正幸 (66 回)、 花岡正 (69 回) 幹事代表/小坂辰徳 (59 回)、 中島節治 (52 回)、小松文吉 (56 回)、 三溝善一 (56 回)、花岡英明 (57 回)、 藤森正忠 (60 回)、岡田敏史 (63 回)、 小坂祥造 (63 回)、竹中由幸 (63 回)、 土橋勝 (64 回)、藤森廣幸 (70 回)、植松高志 (72 回) 連絡先/〒666-0129 川西市 緑台 7-3-15 吉澤方 TEL・FAX: 072-793-8668 E-Mail: keiyoshizawa@jttk.zaq.ne.jp	支部長/小松久夫 (59 回) 副支部長/笠原英城 (59 回)、 武井久良 (59 回) 事務局長/小林良章 (75 回) 事務局次長/矢澤弘司 (81 回) 幹事/浜一吉 (65 回)、今井安栄 (67 回)、 保坂秀正 (68 回)、小口眞紀雄 (69 回)、 濱隆二 (73 回) 監査役/岩田昌久 (50 回)、 有賀章 (59 回) 連絡先/〒507-0826 多治見市 脇之島町 4-31-15 小林方 TEL: 0572-25-4473 E-Mail: kobayashi@ryu-9.com	会長/藤森宏一 (63 回) 副会長/平林千義 (67 回・ 事務局局長兼務)、長田宏子 (62 回)、 金子充宏 (65 回)、平林千春 (69 回) 会計幹事/有賀朝彦 (63 回) 監査幹事/今井恒夫 (57 回) 小林國利 (62 回) 事務局次長/大島道雄 (71 回)、 林健康 (72 回)、関屋孝行 (76 回) 連絡先/〒101-0047 東京 都千代田区内神田 3-24-5 神田 シティホテル気付 TEL・FAX: 03-5382-2302 E-Mail: michihiro-kaneko@mtj.biglobe.ne.jp	支部長/荻野浩 (57 回) 副支部長/伊藤隆一 (58 回) 幹事長/大森尚人 (68 回) 幹事/土屋隆 (60 回)、 長谷川茂夫 (60 回)、林靖 (62 回)、 勅使河原英明 (66 回)、加島範久 (70 回)、 田中正幸 (71 回)、川島弘 (73 回)、 小澤利長 (78 回)、福島正寿 (80 回)、 橋本実樹 (83 回)、中村海基 (92 回) 会計監事/武居保男 (80 回) 事務局/赤羽博 (78 回) 連絡先/〒399-0426 辰野町 宮本 3795 荻野方 TEL・FAX: 0266-41-1421 E-Mail: hy7ogino@pol6.lcv.ne.jp	支部長/高見澤忠明 (61 回) 副支部長/岩本弘 (65 回)、 有賀良夫 (68 回)、花岡 佳市 (71 回)、 中村博 (72 回) 幹事/井上英 (85 回) 連絡先/〒381-0043 長野市 吉田 4-10-32-911 井上 方 TEL・FAX: 026-259-6354 E-Mail: you@ea.mbn.or.jp
直近の支部総会	日時: 23 年 2 月 27 日 会場: 大阪第一ホテル 参加者: 39 名 [サロンコンサート] ソプラノ独唱尾崎比佐子	日時: 23 年 3 月 12 日 会場: キャッスルプラザ (名古屋 市) 参加者: 19 名 [講演] 小林常晃 (58 回・東海市在住) 「わたしの木版画」 [総会] 小松支部長が挨拶で地域の 文庫管理に関して三澤文庫を 紹介、実地見学で母校の名を 知らしめた例を披露	日時: 22 年 10 月 15 日 会場: アルカディア市ヶ谷 参加者: 197 名 [総会] ・会費納入方法の変更 (2011 ～13 年度の 3 年間は賛助 金も含め前期通り。2014 年 3 月をもって終身会員制 度を廃止) ・会則改定・役員改選。 [懇親会] ・御柱年に因み山出し・里引 きのビデオ上映	日時: 22 年 5 月 29 日 会場: たつのパークホテル 参加者: 40 名 [記念講演] NPO 法人 JIPPO 職員 高木美智代 (89 回)「青年 海外協力隊ができることー 世界へ、そして日本へ」	日時: 23 年 2 月 18 日 会場: ホテル国際 21 (長野 市) 参加者: 50 人 ここ数年、徐々に若い層 (20～30 歳代) の参加が 増える傾向にあります。ま た今回は初めて新聞広告 (信濃毎日新聞・社会面) による支部総会開催の 告知を行い、多くの問 い合わせをいただきました。
前年度活動	・ゴルフコンペ開催 (2 回) ・平城京を歩く (22 年 4 月・18 名参加) ・蹴上インクラインを歩く (22 年 11 月・8 名参加) ・会報 19 号発行	・総会に出席できなかった 会員に総会の報告および 会員の消息などの資料を 郵送	・『東京清陵會だより』の 発行 ・東京同窓連、南信同窓連 の会議及び催事への参加 ・「寒水会」(小石川高校同 窓会共催) への参加 ・清陵勉強会	・支部会員名簿整理	
今年度の計画	・ゴルフコンペ開催 (2 回) ・歩こう会開催 ・会報 20 号発行 ・支部総会	・ゴルフコンペ (予定) ・会員増強アクション ・第 29 回支部総会 (24 年 2 月～3 月) ・支部だよりの発行	・『東京清陵會だより』の 発行 ・支部総会 (10 月第 3 金恒例) ・清陵勉強会の開催	・支部会員名簿整理 ・支部総会	・支部総会



昭和シェル石油特約店

株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号 ☎本店 (0120) 210-613

代表取締役会長 細川 昭 八 (51回)

代表取締役社長 細川 洋 一 (84回)

常務取締役 細川 浩 二 (86回)

宮坂 友比古 (67回)

78 回生 共同広告

信濃電材株式会社

代表取締役

社 長 岩波 順

本社 長野県岡谷市若宮二丁目 2 番 38 号

〒394-0032 TEL.0266-23-3131 FAX.0266-22-8450

片倉隆幸建築研究室 主宰 片倉隆幸
 菊島工業株式会社 代表取締役 菊島哲夫
 (株)ツカダファイネス 専務 塚田 功
 オプト株式会社 専務取締役 登玉秀文

	松本支部	富士見支部	茅野支部	諏訪支部	下諏訪支部	岡谷支部
支部役員	支部長／藤森弘 (60回) 常任幹事／山田巻義 (64回) 会計監査／赤羽英勝 (60回) 連絡先／ 〒390-0861 松本市 蟻ヶ崎 3-7-20 藤森方 TEL・FAX: 0263-32-7016 E-Mail: h131213f@coral.plala.or.jp	支部長／小林光 (60回) 副支部長／飯田幹夫 (69回)、水野俊彦 (63回) 事務局／川合弘人 (76回) 連絡先／〒399-0211 富士見町富士見 3697-1 小林方 TEL・FAX: 0266-62-7815 E-Mail: pikkari@bb.wakwak.com	支部長／上條雄 (61回) 副支部長／北原正信 (69回) 事務局／樋口尚宏 (77回) 連絡先／〒391-0012 茅野市金沢 2412-1 樋口方 TEL・FAX: 0266-72-8302 E-Mail: nhiguchi@po26.lcv.ne.jp	支部長／堀内昌翰 (66回) 副支部長／伊藤八郎 (68回) 事務局／蒲地重明 (66回) 会計／後町泰昭 (68回) 会計監事／山崎晃 (64回)、原英充 (65回) 連絡先／〒392-0016 諏訪市豊田文出 182-1 蒲地方 TEL: 0266-58-2204 E-Mail: skamachi@sky.plala.or.jp	支部長／高木鐵也 (63回) 副支部長／小松新平 (64回)、中村國彦 (65回) 事務局／阿部光男 (66回) 連絡先／〒393-0092 下諏訪町大門 219 阿部方 TEL: 0266-27-3829 FAX: 0266-27-3823 E-mail: daimon1@po29.lcv.ne.jp	支部長／花岡枉好 (68回) 副支部長／佐原一誠 (64回)、小口憲司 (69回)、竹村文男 (72回) 連絡先／〒394-8611 岡谷市郷田 2-1-8 諏訪信用金庫総務部内 TEL: 0266-23-4567 FAX: 0266-24-4055
直近の支部総会	日時: 23年3月26日 会場: 東急イン (松本市) 参加者: 14名 懇親会の前に石城教頭と松下会長から併設型中高一貫教育の導入に関して、学校と同窓会の取り組みの経過と今後の見通しについて、時間を取って詳しくお話いただいた。	日時: 23年2月20日 会場: 大興 (富士見町) 参加者: 40名 [総会] ・役員改選 [講演] 坂本昭 (59回・富士見町在住)「フランス絵画紀行」	日時: 23年2月5日 会場: マリオローヤル会館 (茅野市) 参加者: 72名 [講演] 長野県教育委員長矢崎和広 (68回・茅野市在住)「長野県及び諏訪地区の教育課題」 [懇親会] 柳平千代一茅野市長 (75回)、矢崎公二衆議院議員 (81回) 挨拶。故・柿沢武 (58回) が遺された第一校歌、第二校歌全文の横断幕を掲げて全員で声高らかに斉唱。	期日: 22年11月19日 会場: 諏訪シティホテル成田屋 参加者: 80名 [総会] ・役員改選 [講演会] ㈱クリンビー社長岡村和彦氏 (78回・諏訪市在住)「環境ビジネスへの挑戦」	日時: 23年3月7日 会場: ぎん月 (下諏訪町) 参加者: 45名 [総会] ・事業報告及び役員確認 (全員留任)	日時: 23年2月3日 会場: ホテル岡谷 参加者: 64名
前年度活動		・東京富士見会との交流 (22年5月29日・30日)			・講演会 (納涼祭) の開催 (22年9月17日) 同窓生ほか全100名ほど 講師: 諏訪赤十字病院院長小口寿夫氏 (64回)「上手な病院のかかり方～これからの医療を考える～」	
今年度の計画	・支部総会 (23年秋予定) ・役員体制の整備	・支部総会 ・東京富士見会との交流	・支部総会開催	・支部総会 (23年11月18日)	・納涼会 (23年8月ころ) ・支部総会24年3月ころ	・支部総会

やさしさをぬくもりのおもてなし

政府登録国際観光旅館



代表取締役社長 山崎 壯一 (51回)
社 長 室 長 山崎 滯子 (56回)

〒392-0027 諏訪市湖岸通り3-3-10 TEL0266 (58) 8000

電気・電子計測の総合メーカー



有限会社

諏訪計測

〒392-0023 長野県諏訪市小和田南16-9

TEL 0266-54-3060

代表取締役 釜洞 修一 (78回生)

学 年 会 短 信

38		38 回同期の皆さん、体の調子はいかがですか。平成 19 年 5 月の卒業 70 周年記念米寿の祝の同期生会からまた 4 年が流れさりました。世の中がめまぐるしく変動するなかで、大勢の同期生の逝去を耳にしました。同期生の動静の現状をお知らせしたいと思い、それをまとめています。学年幹事としての仕事おさめとして秋ごろまでにお届けしたいと思っています。ご協力をお願いします。ご自愛のほどお祈りいたします。(幹事/小林克己 TEL0266 - 64 - 2063)
40		卒寿を迎える年になって、亡くなる方が 1 人 2 人と増えてきました。ここ 2、3 年集まる機会がなくなりました。足腰が悪くなり出歩くことが少なくなったようです。でも元気に仕事についている方も何人かあり、文通などしています。まだ海外旅行も出来て見聞を広めながら楽しんでます。老若男女を問わず、その会合に出ることによって元気をもらい、更に意欲をもって物事に取り組んでおります。力の限り人生を楽しんでいきたいと思っています。戦前戦後を生きてきた自分史を書こうとしている仲間もいます。(加々見一郎記)
45		昨年の同窓会定期総会には、小松直樹君と小松一弘が出席。45 回生は 2 人だけであったが、懇親会では、38 回生の立木正純先生と、50 回生の諸兄と同席。実は、その 50 回生は、私が昭和 22 年に母校旧制諏訪中学で地方教育実習 (3 カ月) をした時に教えた後輩たち (今は 80、それぞれの風格とともに立派な方) であった。私の最後の授業の終りに教室で共に校歌を歌ったことも覚えておられ、懐かしい限りであった。 今年の冬は例年にならぬ朝晩の冷え込みがあり、放射冷却で諏訪地方の最低気温は連日氷点下 10 度近くに下がり、厳しい寒さが続いた。1 月 14 日の朝、岡谷市側の一部を除き全面結氷したとのこと。御神渡り 3 季ぶりの期待が高まったが、その出現はなかった。私は節分の日、上諏訪湖畔に立ち、夕焼け空の下、まだ渚から 3 メートルくらいまでは 15 センチの厚さ、遠く広がる氷の湖面を眺め、氷上でのスケート大会の頃を想い出していた。諸兄も、故郷諏訪の自然の厳しさ、美しさと共に、あの若き頃を想い出してほしい。(幹事/小松一弘 TEL0266 - 52 - 6911)
50	互 励 会	昭和 19 年、敗戦の前年に旧制諏中へ入学、4 年時に新制の清陵高校に昇格した吾々は 6 年間の清水ヶ丘の学園生活で篤い友情を育むことができた。卒業 60 周年記念の合同互励会を 22 年 11 月 14 日、58 名の参加を得て盛大に開催。堂々たる母校を訪問し、往時のボロ校舎の感慨を語り合い、地藏寺では、先立った 90 余名の友人を供養し紅葉の庭を嘆賞。まるみつ展示場の記念展には、恩師共々 100 点余の「生きた証」の書画・写真・著作等を目にすることができた。鷺乃湯の懇親会では、遠来の諸兄のスピーチで盛り上がり、日本一長い校歌の大合唱で感動の幕を閉じた。(荻原儀久記)
60	睦 和 会	3 年半後の本会主催「喜寿の祝い」挙行に向かってお互いに健康維持を申し合わせております。昨年 10 月御柱年に合わせ諏訪湖ホテルにおいて「睦和会古希プラス 2 総会」を開催し 70 名余の仲間が集まりました。また東京支部で隔年実施している総会も 1～7 部の当番幹事それぞれが遂行し、今年は第 2 クールに入ります。秋に 1 部が 2 回目の担当 (代表:加室君) でユニークな企画を期待しています。当日は諏訪からも夫婦同伴でバスにて上京し参加を予定しています。またオプション事業として 22 年 11 月、唐津くんち長崎熊本の旅を実施しました。今年は四国の旅を 5 月に予定。(学年幹事笠原文武記)
63		今年の学年会は東京都内で行うこととし、東京幹事を中心に計画を進めています。開催時期は 9 月～10 月を予定し、「古希を祝う会」を兼ねたいと考えています。大勢のご参加を期待いたします。(久保田克明記)
64	ザザムシ会	ザザムシ会諏訪では、各クラスの幹事が集まる幹事会を 3 カ月に 1 回行っています。2012 年には、70 歳・古希を記念してザザムシ学年会を計画しております。
65		今年の同年会は懇親会を 9 月 10 日 (土) 午後 5 時 30 分から割烹「森の家」(茅野市)で行います。その懇親会前の交流プランとして①ゴルフ、②ボート、③諏訪文学散歩を計画。詳細については当番幹事 (5 部) で検討し、後日連絡しますので多数の参加をお待ちしています。また、諏訪地域在住の 65 回生有志が集まる飲み会である「八日会」は、引き続き実施しています。毎月 8 日の午後 6 時 30 分から上諏訪駅前の「いずみ屋」で固定開催していますので気軽に参加してください。諏訪地域在住者以外でも諏訪へ来た際にはぜひ顔を出してください。(幹事/青木成雄 TEL0266 - 53 - 0072)
68		第 11 回学年会を 23 年 6 月 25 日総会懇親会終了後 18 時 30 分から紅蘭 (諏訪市湖岸通り 5 - 17 - 7 / 電話 0266 - 58 - 1443) にて、会費 4,000 円 (総会出席者は 2,000 円) で開催します (出席・欠席の連絡不要)。問い合わせ先: 学年幹事伊藤八郎 (携帯: 090 - 7953 - 0665 電話・FAX: 0266 - 52 - 3769。欠席される方で、近況等連絡事項がある時は FAX 下さい。皆に伝えます)
69	無 垢 の 会	第 42 回「無垢の会ゴルフコンペ」を 6 月 15 日 (水・集合午前 8 時 30 分) にフォレストカントリークラブ三井の森で開催します。8 組で締め切りますので早めにエントリーしてください。※100 回開催を目指して年 4 回開催しています。応援よろしく! 連絡先: 小口憲司 (090 - 3063 - 5871) または矢澤博 (090 - 3312 - 1469)
70		今年から学年幹事を引き受けました。今まで永きに亘りやって頂いた岡谷の山田厚君より引き継ぎました。理由と言えば、母校のお膝元に住んでいて何かと都合が良いからとの感もありますが、昨年の同期会の場において多くの仲間から言われ、特に前任者のご苦勞を考えれば快く受けるべきと判断しました。現在、大先輩で亡くなられてしまった河西保美さんからも諏訪支部の上諏訪地区長を引き継いでいるため、気が引けた部分もありましたが、受けたからには学校とのパイプ役、また、まとめ役として精一杯努力する所存です。どうぞ宜しくお願い致します。(小松重一記)



子供・シニア・ビジネス英会話
小中高の学習塾、進学・受験指導
英会話と進学ゼミのアクシス

諏訪校・茅野校・富士見校

東進衛星予備校

東進衛星予備校 諏訪末広校

取締役 小尾 順子 (78 回生)

〒391-0003 茅野市本町東 8-14 TODO ビル
TEL 0266-73-1437 WEB <http://www.axisedu.com>



テニス・バドミントンの専門店
プロショップ TO・DO

TEL 0266-73-3926 WEB <http://www.shoptodo.com>

山田外科医院

院長 山田雄三 (78 回生)

診療科目 脳神経外科、外科
皮膚科、泌尿器科

岡谷市東銀座 1-12-30
TEL 0266-22-2382

72	篝 火 の 会	現在、72 回生篝火の会サイト「清陵のお庭」で東北関東大震災の安否確認や原発の専門情報などを展開しています。多くが還暦を迎えた昨年は、御柱祭に独自のお宿を設営し、県内外全国から久しぶりの再会を果たして大いに盛り上がりました。そのエネルギーを絶やさずゴルフやきのこ穫り、月1回の例会は美酒を持ち寄り奥方たちも参加して談論風発。「清陵のお庭」では哲学・数学・文学・年金・老後のあり様まで、ありとあらゆるテーマの談論会が日夜続いております。総会当日は午後7時からいつもの伊呂波(諏訪市大手町 TEL0266 - 58 - 0365)で学年総会を開きます。会費 3,000 円。奮って参加を。(幹事/小泉悦夫 TEL0266 - 58 - 2510)
77		77 回生の皆様、昨年は物心両面にわたるご尽力、ご支援をいただき本当にありがとうございました。紙上をもって重ねて厚く御礼申し上げます。同窓会総会にて再会できることを心より願っております。各クラス理事から具体的な連絡が届くかもしれませんが、その折には何卒宜しくお願い致します。学年幹事・長田 拝
79	かかなき会	いよいよ来年は当番です。今年の同窓会総会の懇親会からスタートですので、よろしく!! (幹事/岩波金太郎 TEL 0266 - 58 - 6337 E-Mail: info@hachimiyaya.com)
92	九 二 会	男性は平均寿命の半分を越え、不惑の 40 歳。本厄でもあります、人生下り坂とは考えず、大災害に備え、一步一步確実に登って参りましょう。(幹事/笠原健一 kenkasa@imail.plala.or.jp)
94	丘 誉 会	このたびの震災で被災された同期の方、同窓の方、心よりお見舞い申し上げます。2010 年 8 月 14 日、94 回生にて「卒業 20 周年学年同期会」が諏訪湖畔「鷺の湯」にて行われました。当日は 132 人の 94 回生、先生方 4 人が集まり、盛会のうちに終了したことをご報告いたします。また、94 回生の同期会名称が「丘誉会(きゅうよかい)」と決定されました。ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。またやりましょう。(幹事/藤森賢也 Tel090-3432-3110 メール kenya@k2.dion.ne.jp)

双樹美術展開催 (52・55 回生)

双樹美術展は上諏訪駅前のまるみつ百貨店を会場として平成 18 年の第 1 回展以来継続して開催してきました。昨秋は会員 21 人の作品に加え、13 人の恩師にご協力をいただき、「5 周年記念展」と銘打って盛大に挙行了しました。

内容は油・水彩画、書、彫刻、陶器、拓本、篆刻、木版画、ステンドグラス、写真、菊花など多岐にわたり、従来の出品数を大幅に上回る総数 87 作品が会場を飾りました。圧巻は大森信比古先生の日展入選作「群童毬入の図花瓶」ですが、沢山の作品をお寄せ下さった先生方のお名前を記して感謝の意を表します。

吉澤治作、宮下琢郎、立川義明、両角克夫、牛山之雄、千野光茂、牛山正雄、矢島寿雄、大森栄、大森信比古、小平恒彦、後町富佐治、小菅重男(敬称略)

6 日間の会期中、多数の市民、同窓生が会場に足を運んで鑑賞して下さいました。なお期間中の 10 月 31 日には例年のとおり総会を諏訪市「湖泉荘」で開催、48 名が出席。恒例の講話会は濱篤兄を講師に「縄文の精神文化について三つの謎にせまる」の演題で勉強。その後の懇親会は大いに盛り上がりました。

第 6 回展は、会場「まるみつ」の閉店と大震災とを受けて今年は見送り、2 年後に開く「傘寿記念展」までを充電期間とすることにしました。したがって本年は「5 周年記念作品集 V」の刊行に全力をあげ、6 月に開催される同窓会総会の

会場においてご披露できればと願っています。

このほか、夏の納涼会には 8 月 29 日、44 名が新宿「ハイアットリージェンシー」に集い、月例会は、東京が八重洲の「扇寿司」、諏訪は駅前「いずみ屋」で 10～15 名が参加継続しています。(諏訪幹事藤森昇記)

長崎支部の拡大大会に参加 (60 回生)

60 回生は、昨平成 22 年 11 月 2 日から総勢 30 名(奥方同伴)で、4 日間の九州旅行を行った。内外の旅はこのところ恒例で、ドイツザクセン「校歌を訪ねる旅」などを楽しんでいる。今回は長崎支部の皆様と合同での支部拡大大会に参加した。長崎支部は、長崎大学前学長齋藤(林)寛氏(58 回・朝日)と奥方をはじめ、三枝健男氏(52 回・下諏訪)、宮坂正英氏(76 回・ちの)が出席。

市内丸山の老舗割烹「青柳」で卓袱料理を堪能した。宴会で齋藤氏は、諏訪神社長崎くんち「銀座町南蛮船」役員として参加したおりのオリジナル手拭(観客席に撒く縁起もの)を手際よくみんなに投げ渡し、大喝采を浴びた。三枝・宮坂両氏も、長崎に出てきた思い出(ほとんど内緒話)を愉快地、かつ、切なく披露され、大きな拍手をさそった。

なお、田原(長田)真弓氏(66 回・辰野)は旅行中のため不参加となった。最後は恒例の第一・二校歌大合唱で締め、大会は盛大裏に終了した。(小林光記)

品質一筋

造り手である私たち自身が舌鼓を打って飲む酒。

大切な家族に安心してすすめられる酒。

親しい友人に胸を張って贈ることができる酒。

私たちはお客様にそんな真澄をお届けしたいと願っています。

だから、品種や産地が分からない米は買いません。

製造工場のディテールには徹底してこ



だわります。

一〇〇%自社製造を守りぬき、純米酒比率の向上にも力を注いできました。

創業から三四九年目となる今年も、

私たちは

お客様のお顔を自らの家族や友人の顔に重ね合わせながら

美酒を醸し続けます。

信州が生んだ天下の銘酒

真澄
マスミ

清酒真澄醸造元

宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16

TEL.0266-52-6161 FAX.0266-53-4477 www.masumi.co.jp

上伊那支部

平成21年度上伊那支部総会は、満開の桜に囲まれたたつのパークホテルにて4月18日に開催し、篠原学校長、松下同窓会長より母校の現況や「母校の発展を支援する会」について説明を受けました。また講演会では、国際俳句協会会員の井内文

雄氏(47回)をお迎えし、「俳句と国際社会—異邦人の足跡」と題しての記念講演を拝聴しました。日本に生まれた世界で一番短い定型詩である俳句は、既に100年以上も前から英仏の学者らにより研究されており、研究論文も発表されていることなど、俳句の国際性やその歴史的

みなどについて認識を新たにしました。最後にイギリスのレジナルド・ブライス著「俳句・イースタンカルチャー」から芭蕉と蕪村の俳句の英訳を觀賞し、俳句独特の寂や優雅さなどの外国語による表現がいかに難しいかを実感しました。

(上伊那支部長荻野浩記)

クラブOB会・OG会短信

この度、学年会短信に倣って、クラブOB会・OG会短信の欄を設けることを提案させていただきました。

学年会が同窓会の横糸だとしたら、クラブOB会・OG会は縦糸ではないでしょうか。諏中、清陵のOB・OGから在校生まで、同じクラブに所属していたという縁で、世代を超えて同窓生がつながっていけるとしたら、それは意義深いことだと思います。

現に、天文気象部、男女バスケットボール部、野球部、端艇部などには伝統あるOB会・OG会があり、世代を超えたつながりを持ち、そのなかで在校生へのサポートも行われています。

しかし、そのようなOB会・OG会をもつクラブは少なく、集まりを行ってはいても、特定の世代の集まりであったり、現役生徒とは没交渉であったりと、十分に機能しているとは言いがたい状況があるようです。

提案者といしましては、この短信欄をきっかけに、これまでOB会・OG会がなかったクラブで立ち上げの気運が高まったり、この欄を告知板として定例会が始まったりし、世代を超えて多くのクラブ関係者が集まる機会が増え、そのなかで、OB・OGによる新たな活動や、現役生徒を支援する動きが生まれたらと期待するところです。

以上ですが、これに本校教頭としての思いも加えて、もう少し述べさせていただきたいと思います。

母校の教頭となって2年が過ぎ、しみじみと感じていることがあります。それは本校の最も大きな財産は、間違いなく綺羅星の如く居並ぶ同窓生の皆さんの存在そのものだということです。

では、その多士済々たる同窓生の皆さんを、学校は十分に

活用させていただいてきたかという、組織的・継続的・戦略的には活用はできていなかったと言わざるを得ません。

学校の発展が教職員の力にかかっていることは言うまでもありませんが、教職員はスーパーマンではありません。得意なこと、思い至らないことも多々あります。

しかし、そういった教職員の限界が、その学校の教育力の限界であっていいはずがありません。不足する部分があれば、学校外の人材や資源を積極的に活用することで補うべきであり、それが学校の飛躍的発展のための鍵でもあると思います。

だとしたら、本校は錚々たる同窓生諸氏の力を積極的に活用させていただくことで、次の時代を切り開いていくべきだろうと私は思います。

今回あらたに設けていただいたOB会・OG会短信が、そのきっかけとなることを大いに期待しております。

教頭 石城正志(78回)

株式会社グリーンビー

代替フロン洗浄機、乾燥機、精密機械の設計・製造・販売

代表取締役
社長

岡村和彦(78回生)

本社・工場：諏訪市四賀3011-3

電話：0266-52-6636(代表)

78回生 司法書士 共同広告

森田司法書士事務所

北澤司法書士事務所

野澤司法書士事務所

森田政彦

北澤平吉

野澤貞人

下諏訪町 4356-17

茅野市仲町 17-34

塩尻市大門六番町 1-3

電話：28-0011

電話：75-2518

電話：0263-53-7212

クラブ・同好会名	連絡先	メッセージ
物 理	幹事 飯田修 (69 回) TEL : 0266-23-1011	平成23年6月25日総会終了後、元物理部員集いの場を用意しました。場所:紅や 2階「サンセット」。当時の学友会館部室より一段と賑やかで飲食も自由です。ふるってご参加下さい。
天 文 気 象	有志会世話人 牛山充正 (51 回) 〒392-0004 諏訪市諏訪 2-1-5 TEL・FAX : 0266-52-0588	第10回OB有志会を開催しますのでご参集ください。日時:6月11(土)PM2:00より。場所:仙岳3F(0266-58-3515)。会費:2,000円くらい(夕食代など)。話題:①三澤先生記念文庫連続講座第1回~第5回開催する。(金子)②三澤先生の太陽観測の秘話その2。(牛山)③本年2月18日太陽黒点観測60周年を迎えて。(牛山)④飯田高校(協力者宮沢)、伊那北高校との重みの違い。(牛山)⑤黒点活動24期を迎えて。⑥天文年鑑2010年、2011年の太陽の部より。⑦信濃教育会と三澤先生の遺品物の展示について。⑧第9回の資料を大切に保管していただき、持参をして頂ければ幸いです。⑨その他話題があったら提供してください。出欠の有無を世話人にTEL・FAXまたは郵送してください。
吹 奏 楽	事務局 両角太 (92 回) TEL : 0266-27-0024	5年に1度の吹奏楽部同窓会(奏友会)が1月に行われ、70名近い参加者がありました。懐かしい写真を見ながら、旧交を温めました。また、奏友会の補助で購入したバスケットネットが、現役生のアンサンブルによって披露されました。通知はがきが届かない会員の方は事務局まで御連絡下さい。
剣 道	幹事 石城正志 (78 回) TEL : 090-5419-8812	本年1月2日、上諏訪駅前で、78回~80回の7名でOB会準備会を開催しました。そこで平成23年度OB会を、8月13日(土)に茅野市にて開催することといたしました。会場・時間・会費の詳細は未定です。参加人数を把握してから会場を確保しますので、参加希望の方は、7月13日(水)までに、幹事へご連絡ください。
男子バスケ	事務局 小口正芳 (79 回) TEL : 0266-57-1417	OB会としての活動は、毎年OB会報を発行し、現役の活動状況をお知らせしています。現役との交流として新年会(1月2日)、合宿最終日、清陵祭の年3回、現役との対抗戦を行っています。また、昨年度よりスポーツエキスパート事業により、宮下和弘氏(77回)がコーチとして練習に参加しています。多数のOBの協力をお願いします。
女子バスケ	事務局 中込三穂子 (86 回・旧姓藤森)	バスケ部女子班に始まる女子バス卒業生は34年間で214名。練習場所もなかった現役応援のためOG会が発足して23年、今までにユニフォーム4回、救急キット、作戦板等計36万円余の購入援助をし、年2回、現役との対抗戦(OG戦)と会報発行をしています。OG戦は親子戦やフリースローコンテストなども挟み現役と楽しく交流、今春1月2日のOG戦には学生から40代までの26名が参加しました。これから5月、6月は高体連南信大会、県大会と続きます。奮って応援に行きましょう!(大会予定は「南信高体連」等でネット検索できます)
野 球	事務局 小口修平 (79 回) TEL : 080-3248-4393	野球部OB会は、年会費を5,000円1口として、できれば2口以上ということで会員にお願いし、その年々でできる範囲の現役サポートを行っています。平成21年度には胸のロゴを「SEIRYO」から「諏訪清陵」への復活を条件にユニホームを寄贈しました。毎年正月とお盆にOB会を開催しています。お盆のOB会では朝から、現役3年生とOB選抜チームの対抗戦、OB会青・赤チームの対抗戦の2試合を行い、夜の懇親会の肴を料理しています。今年の当番学年は19代と29代で、お盆の対抗戦は8月16日に諏訪湖スタジアムで行う予定です。
端 艇	来年度幹事学年代表 池田国成 (92 回) TEL : 090-8723-6601	毎年1月2日14:00より諏訪市大手(並木通り)「須磨」(0266-53-0305)にてOB会を開催。本年も20人ほどが集まり、昔話に花を咲かせました。OBの皆さん誘い合わせて、ご参加下さい。(会費7000円、若年割引あり)来年度の幹事学年は92回生です。

株式 倉橋英太郎建築設計事務所
会社 EITARO KURAHASHI ARCHITECT&ASSOCIATES

代表取締役 倉 橋 英太郎

取 締 役 倉 橋 孝 子 (旧姓: 大家・78 回生)

〒399-0005 長野県松本市野溝木工 1-1-30

電話: 0263-26-6765 FAX: 0263-28-6765

<http://www.kurahashi-a.co.jp/>

今井 整形外科

院長 今井 智彦 (78 回生)

〒394-0081 岡谷市長地権現町 3-2-12

TEL 0266-28-9933

FAX 0266-28-9318

訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(平成23年4月30日までにご連絡をいただいた方々)

29 小池 栄二 2007//	41 大和栄次郎 2010/1/7	47 宮坂 俊二 2011/3/24	56 守矢 徹生 2010/2/16
30 有賀 槐三 2009/4/15	41 小松 益美 2009/10/22	47 渡辺 隆男 2009/12/21	57 山田 睦夫 2008/11/12
30 矢崎 和男 2009/9/24	41 中村 守利 2010/11/11	48 塚原 和夫 2010/10/4	58 梅垣 弘 2007/5/25
32 小林 又蔵 2010/10/5	41 浜 健三郎 2010/3/24	48 矢崎 文彦 2011/3/24	58 小松 敏郎 2010/9/21
33 有賀 芳郎 2010/12/3	42 小松 誠 2009/8/30	49 朝倉右近次 2010/3/9	59 有賀 秀春 2010/4/28
33 林 仙 2006/9/22	42 島立架姿幸 2010/9/14	49 北澤 一衛 2010/2/17	60 牛山 雅弘 2010/6/11
33 柳平 茂俊 2011/2/14	42 畑 政歳 2010/4/19	49 小林 重一 2009/12/28	60 長田 通倫 2010/7/1
34 柿澤 守次 2010/6/	42 林 栄重 2010/2/17	49 濱 篤 2010/5/12	60 小尾 武人 2010/12/1
35 洞澤 達美 2009/12/21	42 山田 茂春 2011/4/13	49 萩 健吉 2007/7/11	61 片桐 清男 2010/4/1
35 松井 利夫 2009/12/5	42 吉澤 登 2009/11/20	50 荒川 建吾 2011/1/29	61 塚原 隆雄 2010/4/30
36 北原 正義 2010/10/4	43 小松 一夫 2009/11/6	50 花岡 誠 2010/4/4	63 飯田 典輝 2011/1/8
37 伊藤 吉人 2009/12/27	43 五味 清 2010/10/10	50 宮坂 広作 2010/10/27	63 飯澤 清 2009/2/21
37 後町 良定 2009/7/3	43 西岡 和明 2010/4/2	51 伊藤 直人 2009/11/8	63 三澤 敏郎 2010/11/25
37 藤森 要吉 2011/3/30	43 吉田 実之 2009/10/13	52 小野 泰策 2011/3/9	63 吉田 紘 2009/6/17
38 北澤 和夫 2010/12/19	44 川村 博俊 2009/1/9	52 清水 忠義 2011/2/15	64 磯山 和彦 2009/11/26
38 小林 宣男 2010/1/27	45 花岡 季彦 2010/3/2	52 古田 寛昭 2010/4/25	66 小平 重治 2010/10/26
38 中島 彦吉 2010/3/1	45 林 淳平 2010/5/30	55 鈴木 正 2009/10/27	66 矢崎 治夫 2009/12/7
38 八幡 榮一 2011/1/25	45 平井 慎吾 2010/7/19	56 伊藤 雄文 2010/10/3	68 山田 将之 2007/10/10
39 村上 利雄 2010/6/26	45 堀川 量平 2009/9/8	56 鶴飼 盈夫 2010/5/15	70 山田 克志 2008/12/
39 後藤 三郎 2006/4/1	46 立石 巖 2011/3/27	56 大蔵 久雄 2009/11/4	71 萩原 啓一 2010/3/26
39 田村 邦雄 2006/6/19	46 名取 邦英 2010/4/2	56 小川 明人 2011/4/22	77 石本 保雄 2010/9/30
39 平林 治吉 2007/8/19	46 宮坂 和男 2011/2/17	56 笠原 清弘 2009/11/18	80 山本 尚利 2009/10/
40 五味 敏高 2010/10/5	47 五十嵐昭夫 2010/7/2	56 小林 一雅 2009/1/6	旧職 太田 正二 2011/4/20
40 原 統五 2010/4/5	47 花岡 典人 2011/1/27	56 林 正泰 2008/8/25	
40 宮坂 有勝 2011/1/11	47 橋本 雅幸 2010/8/7	56 伏見 高治 2010/9/7	

事 務 局 だ よ り

◆3月に東日本また長野県北部において大震災が発生。これらの地で生活し、活躍されておられる同窓生ならびに関係者を思いつつ、犠牲になりました方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

◆『三澤勝衛著作全集』(全4巻)が発刊されて、昨秋は編集に携わった木村信夫氏(68回)の講話会が「今、三澤勝衛を読む意味」と題して茅野で開かれました。また母校でも11月から今春3月にかけて三澤先生記念文庫運営委員会による「三澤先生記念文庫連続講座」が5回にわたって開かれました。さらには3月に「諏訪の風土を活かした地域づくりフォーラム」が木村信夫氏を講師に開かれています。「風土学」という観点から、三澤勝衛は上記の大震災に対してもコメントを寄せるとすれば、どのようなコメントを寄せるのでありましょか。

◆平成22年度中の「清陵OB文庫」へ寄贈いただいた図書等は下記のとおり。有り難うございました。

- ・新津新生著『青年たちの六十年安保―長野県からみる闘争の足跡―』(著者より)
- ・松本・旧制高校記念館友の会編『記念館だより』第51号・52号(山田和夫氏より)
- ・二木隆(60回)著『京大の石松 東大へゆく』(著者より)
- ・樋口宗司(筆名:香取淳・66回)著『テロメアの報復』(著者より)
- ・片野満(56回)著 小説『中先代に生きて』(著者より)
- ・〃 小説『諏訪大明神絵詞』(著者より)
- ・〃 『頼山陽の恋』(著者より)
- ・飯沢文夫(72回)編『地方史文獻年鑑―郷土史研究雑誌目次総覧―2008―』(編者より)
- ・宮坂亨(90回)著『歌集 010 安保』(著者より)

◆1月27日の県教委定例会にて、母校の併設型中高一貫校の設置が決定されました。間もなく創立120周年を迎える母校の歴史にあっても画期的な転換期となりますが、中高一貫教育はシステムにすぎず、今後、そこにどのような教育内容を盛り込むかが大事になってきましょか。中高一貫校の開校が決定した以上、同窓会としてもより良い中高一貫校となるよう支援していきたいもの。また中学生を迎えて、同窓会の会則・組織・運営などは?

◆例年桜の候に執り行ってきた「道志社先輩ならびに物故会員慰霊法要」

は、統一地方選や大震災その他で、申し訳ありませんが順延に。なお昨年は御柱年もあって法要を秋に順延しましたが、この御柱祭では清陵同窓会の「お宿」は役員会の決定により設置しませんでした。ところが、他校同窓会が「お宿」を設けているのに清陵同窓会では何故やらないのか一とのお叱り(?)に似た電話を複数の同窓生から頂いたことをここに紹介しておきます。

◆創立百十周年記念『会員名簿』発行後の住所変更も多く、折角この『同窓会報』を発送しても数多くが事務局へ戻されてくるのが実情。住所等の変更の節は事務局へ是非ご連絡を。また、差し支えなければ、各学年やクラスで作成された最新の名簿をご提供いただければ幸いです。

◆平成23年度学校同窓会係・事務局

- ・学校同窓会係:濱恒弘(主任・78回)、吉田和正(79回)、大久保純男(80回)、奥村達朗(86回)、小宮山健司(87回)、藤森秀則(88回)、小口稔(学校事務長・83回)
- ・事務局:武居浩明(56回・月曜日と金曜日に出勤)、小口修平(79回・必要に応じて出勤)

電話 0266-58-0356 FAX 0266-57-0348

E-mail dousokai@suwaseryo.jp

ホームページ http://www.suwaseiryoy.jp

編 集 後 記

今年は総会のシンポジウムと会報の特集テーマに共通性をもたせました。会報では表現し足りなかったものをシンポジウムでビジュアル的に披露し、談話会形式で意見を交し合おうという企画です。学生時代に戻って多くの論客の参加を期待しています。

本企画を進めるにつれ、我々が、また同窓諸氏が、諏訪を愛し母校を愛し諏訪にしっかり土着していることを再認識しました。例年に劣らぬ濃い内容の会報をお届けできますことを慶び、発行にあたりご協力を賜りました、学校、同窓会関係諸氏に深く感謝いたします。

78回同窓会実行委員会:【学年幹事長】足立孝幸、小林生典、石城正志、岩波正恭、三浦洋子、【会計】井上誠、関隆範、【会報部】登玉秀文、石埜徳高、岩波文人、佐藤豊、濱恒弘、中村利彦、矢崎彰一、小口修平(79回)、【総会運営】小林生典、平林隆夫、河西秀樹、森田政彦、北澤平吉、小尾順子、小尾一郎、三浦千弘、五味弘